

# ScholAgoraセミナー

-日本の学術誌を支えるJ-STAGEの今-

令和6年11月22日



科学技術振興機構

# JST概要

## ■ 科学技術・イノベーション基盤の強化

- 科学技術情報連携・流通促進事業
- ライフサイエンスデータベース統合推進事業
- 研究人材キャリア情報活用支援事業
- 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
- 国際青少年サイエンス交流事業
- 先端国際共同研究推進事業

## ■ 社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創

- 研究開発戦略センター(CRDS)事業
- アジア・太平洋総合研究センター(APRC)事業
- 低炭素社会戦略センター(LCS)事業
- 未来共創推進事業
- 社会技術研究開発事業

## ■ 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進

- 共創の場形成支援
- 大学発新産業創出プログラム(START)
- 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)
- 大学発新産業創出基金事業
- ムーンショット型研究開発事業
- 経済安全保障重要技術育成プログラム
- 革新的GX技術創出事業(GteX)

## ■ 新たな価値創造の源泉となる研究開発の推進

- 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)
- 戦略的創造研究推進事業(先端的脱炭素化技術開発)(ALCA-Next)
- 未来社会創造事業

## ■ 多様な人材の支援・育成

- スーパーサイエンスハイスクール支援
- 科学技術コンテストの推進
- 大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援
- プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム
- 研究公正推進事業

- 創発的研究支援事業
- 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保  
※次世代研究者挑戦的研究プログラムとして

# JST情報事業



第5期中長期計画では6本の柱の中の「科学技術・イノベーション基盤の強化」の中で「情報基盤の強化」として位置付けされている。

## 5. 科学技術・イノベーション基盤の強化

社会変革や新たな価値創造に向けた我が国の研究開発成果の最大化に貢献するためには、国内外の動向を踏まえたうえで、研究開発の共通の基盤を構築・強化する必要がある。そのため、科学技術・イノベーションの創出に必要な不可欠な役割・機能を担っている情報基盤の強化を行い、多様な知を最大限に活用することにより、研究開発成果の最大化に貢献する。また、国際共同研究や交流の促進により、社会変革に向けた研究開発の共通の基盤を構築・強化する。

### 5. 1. 情報基盤の強化

オープンサイエンスの世界的な潮流を踏まえつつ、論文や研究データを含む科学技術情報の効果的な活用と、国内学協会等による研究成果の国内外に向けた発信が促進される環境を構築し、科学技術情報の流通を促進する。また、組織や分野の枠を越えた研究者・技術者間の人的ネットワークの構築を促進するとともに、我が国の研究力の分析・評価に資するため、研究者・技術者等に関する情報を幅広く活用できる環境を整備する。

ライフサイエンスデータベース統合の推進については、ライフサイエンス研究開発全体の活性化に貢献するため、文部科学省が示す方針の下、研究開発成果が広く研究者コミュニティに共有・活用されるよう、利用者ニーズを踏まえた研究開発等を通して、データベース統合を進める。

また、科学技術・イノベーションの創出を担う博士課程学生や研究者・技術者等、高度人材のより多様な場での活躍及び流動を促進するため、産学官連携の下、キャリア開発に資する情報の提供を行う。

なお、これらの取組を進めるため、産学官の機関との連携を一層推進するとともに、常に利用者のニーズや国内外の動向を把握し、利用者目線に立ってサービスの利便性向上を図る。

JST情報事業は、オープンサイエンスの世界的な潮流を踏まえつつ、科学技術情報の流通を促進する。また、我が国の研究力の分析・評価に資するため、研究者・技術者等に関する情報を幅広く活用できる環境を整備する。

※オープンサイエンスとは、公的研究資金を用いた研究成果について、科学界はもとより産業界および社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することで、イノベーションの創出につなげることを目指した新しいサイエンスの進め方を意味する。

(出典：内閣府総合科学技術・イノベーション会議 2015年3月30日付「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書)

# 情報基盤の強化

## 科学技術情報連携・流通促進事業

(※件数等は令和6年3月31日現在)

### 基本情報の整備・連携活用システム等の整備

研究者、研究機関、論文、特許などの科学技術に関する基本情報を整備するとともに、関連情報をリンクさせた横断的な検索や分析を可能とするシステムを一般に提供。様々なユーザがインターネットから分野や業種の垣根を越えて科学技術情報を利用できる環境を整備

#### DOI登録システム



国内学術コンテンツの国際的流通を促進するため、国際的な識別子DOIの登録システムを開発・運用



#### 科学技術情報総合検索サービス

論文

##### 論文の書誌情報

(書誌情報: 約6,626万件)  
書誌情報= 題名、著者名、発行年月日、巻号、発行国等の情報

特許

##### 国内特許

1993年以降の国内特許約1,554万件を収録

ファンド情報

GRANTS

研究課題総合検索

JST

プロジェクトデータベース

関連情報の連携

関連情報間のリンク

DOI登録

#### 論文 電子情報発信・流通促進

##### 論文プラットフォーム

国内学協会誌の電子ジャーナル化を支援し、我が国の科学技術論文情報の発信の迅速化と国際化を図る(2,398学協会、3,981誌参加)

J-STAGE

Jxiv

日本で初めての本格的なプレプリントサーバとして、未発表のプレプリント(査読前論文)をオープンアクセスで公開(令和3年度末運用開始)

論文の全文情報とのリンク

#### 研究者 研究者情報の流通促進

##### 研究者検索サービス

researchmap

研究者

##### 研究者情報

(国内研究者情報: 約36万人)

関連情報間のリンク

#### 論文 科学技術文献情報提供事業

国内外の科学技術情報へ継続的にアクセスできるよう、データ(論文の要約等)を整備し、我が国における効率的な研究開発活動を支援している。

J Dream III

## ライフサイエンスデータベース統合推進事業

バイオサイエンスデータベースセンター  
National Bioscience Database Center (NBDC)



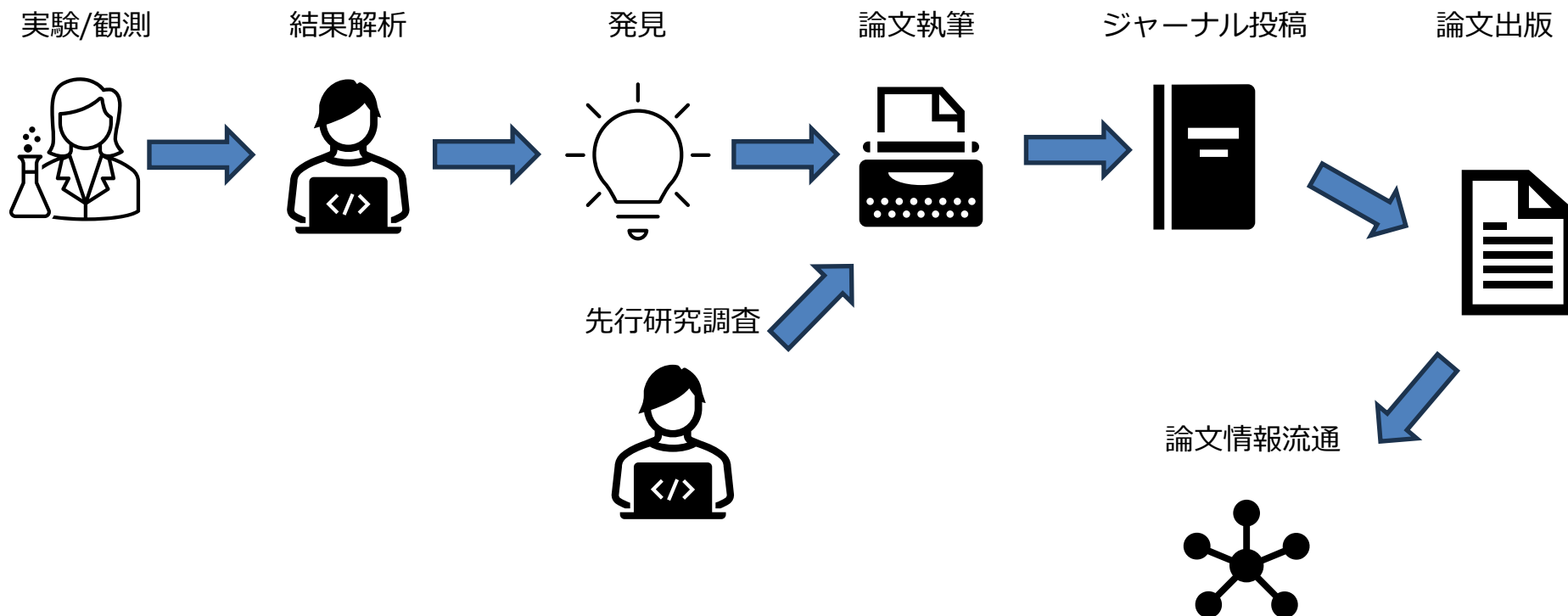
○All JAPANとしてライフサイエンス知的基盤の構築  
○各種バイオサイエンス関連機関やプロジェクトとの連携

## 研究人材キャリア情報活用支援事業

JREC-IN  
Portal  
for all researchers and research staffs

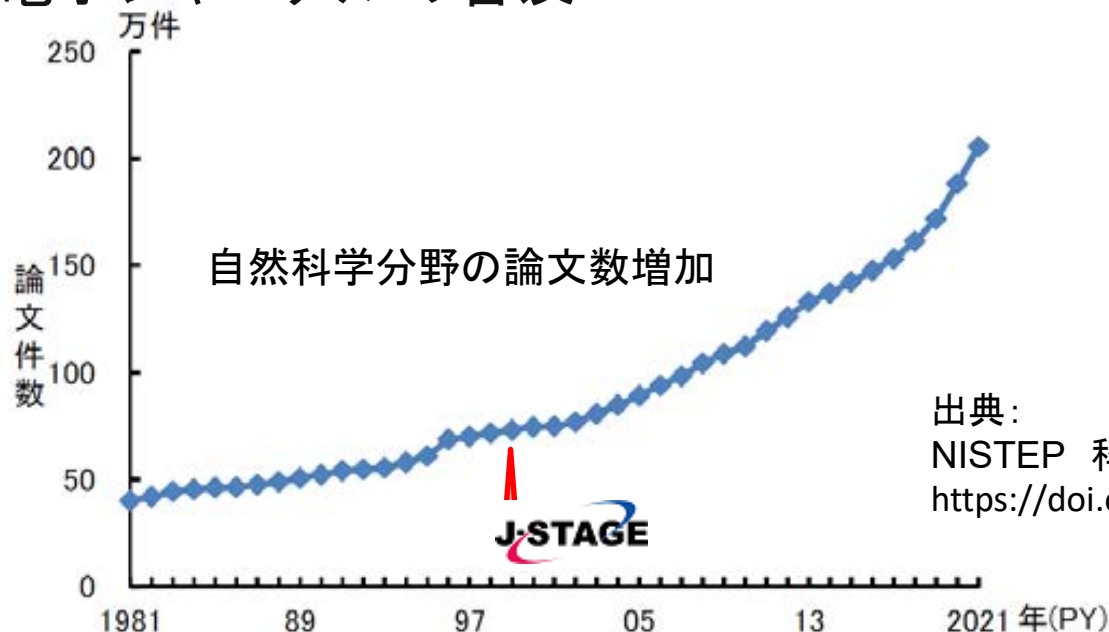
研究者・研究支援者・技術者等の研究人材のキャリア形成・能力開発を情報面から支援する研究人材のためのポータルサイト

# 學術論文出版



# 学術論文出版

- 世界的な論文数拡大。
- 電子ジャーナルの普及



注:  
分析対象は、Article, Review とし、整数カウント法により分析。年の集計は出版年 (Publication year, PY) を用いた。

資料:  
クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022 年末バージョン) を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

# J-STAGE

- Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic (科学技術情報発信・流通総合システム)
- 日本国内の学協会等が発行する科学技術(人文科学・社会科学分野も含む)逐次刊行物の発信・流通促進及びオープンアクセス推進を目的として運用される電子ジャーナルサイト

J-STAGEトップページの検索窓 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

J-STAGE 資料・記事を探す J-STAGEについて ニュース&PR サポート サインイン カート JA

J-STAGE上の記事を検索

検索条件の詳細設定

5,223,458 記事 (4,958,354 記事)

3,286 資料 (2,844 資料)

25 専門分野

\* 2021/05/06 現在



## 日本の学協会等が発行する学術ジャーナルの電子出版を担うプラットフォーム

### 8割以上のジャーナルが無料

- ◆ 1999年サービス開始
- ◆ 収録誌数: 4,100 誌  
収録記事数: 5,752,137記事  
(2024/11/1現在、刊行終了誌や予稿集を含む)
- ◆ 我が国の科学技術刊行物の国内外への情報発信及び流通を促進
- ◆ オープンアクセスを推進
- ◆ データの作成・公開・運用は各発行機関 (J-STAGE利用学協会等)が実施

25周年!



# J-STAGE事業の変遷(1)

ジャーナル電子化が主目的

1999年 J-STAGEサービス開始

投稿審査システム提供開始

2000年 大会演題登録システム提供開始

認証機能・電子付録・新着アラート機能提供開始

2001年 アクセス統計データ配信開始

2002年 引用文献リンク開始、STN→J-STAGEリンク開始

Crossref参加、JST Link Center開始、画面リニューアル

2003年 Crossref、PubMed、JOISLink、ChemPortリンク開始

2004年 J-STAGE2サービス開始

新投稿審査システム運用開始

早期公開機能、全文HTML公開機能、MyJ-STAGE機能提供開始

セット販売機能提供(Unibio Press)

2005年 被引用リンク提供開始、

論文一部売り機能提供開始

オープンアクセス機能提供(日本化学会)

2006年 COUNTERレポート提供開始

Googleとの連携開始

2008年 J-STAGE推奨基準リリース

2009年 NDL Portaとの連携開始

2010年 WebAPI機能提供開始

2011年 ASP方式の投稿審査システム提供開始(EM/SM)



2005年～創刊号まで遡って電子化

Journal@rchive



# UniBio Press

**ISCI/ASIA**  
 国際学術情報流通基盤整備事業

English

著者名: 検索語: 

Search

[詳細](#)

お気に入り検索

1 [バイオ](#)

2

3

4

5



## ジャーナル一覧

[Journal of Mammalian Ova Research](#)  
[Mammal Study](#)  
[ZOOLOGICAL SCIENCE](#)

(2001-2004)  
 (2002-2004)  
 (1998-2005)

▶ [認証パスワード変更](#)

<<J-STAGEからのお知らせ>>

# J-STAGE事業の変遷 (2)

ジャーナル電子化が主目的

2012年 J-STAGE3サービス開始  
(Journal@rchiveとJ-STAGEの統合)

2012年～Japan Link Center本運用  
開始



2015年 登載対象コンテンツ拡大  
Web登載機能提供開始

2016年 NII-ELS登載誌移行受付開始  
Creative Commonsライセンス表示機能提供開始(ジャーナル単位)

2017年 画面インタフェースリニューアル

2018年 Altmetric表示開始  
早期公開 版管理機能提供開始  
Porticoダークアーカイブサービス提供開始  
ジャーナルコンサルティングサービスパイロット開始

# J-STAGE事業の変遷 (3)

2019年3月 J-STAGE中長期戦略策定

オープンサイエンス対応や  
ジャーナル強化に  
重点をシフト

2019年 XMLスキーマをJATS1.1にバージョンアップ  
Creative Commonsライセンスを記事単位で表示する機能開始  
2020年 データリポジトリJ-STAGE Dataリリース  
2022年 プレプリントサーバJxivリリース  
ジャーナルダッシュボード機能リリース

2024年5月 J-STAGE中長期戦略改定

登載情報の品質向上と  
発信力強化を  
事業の柱に追加

2024年6月 バーチャルイシュー機能リリース

2025年(予定) ベーシック投稿審査システムリリース  
予定 XML登載標準化準拠  
その他 即時OA対応、メタデータ項目の拡充など

# J-STAGEの機能と運用体制



ジャーナル



サービス

システム

基本機能

- メタデータ/全文アップロード
- 公開
- DOI登録
- 引用文献・被引用リンク
- アクセス統計
- ダッシュボード

オプション機能

- 投稿審査 (ScholarOne, Editorial Manager)
- 剽窃の検出 (iThenticate)
- データリポジトリ (J-STAGE Data)

ナレッジ

- J-STAGEセミナー
- ジャーナルコンサルティングプログラム

発行機関

編集委員会の運営

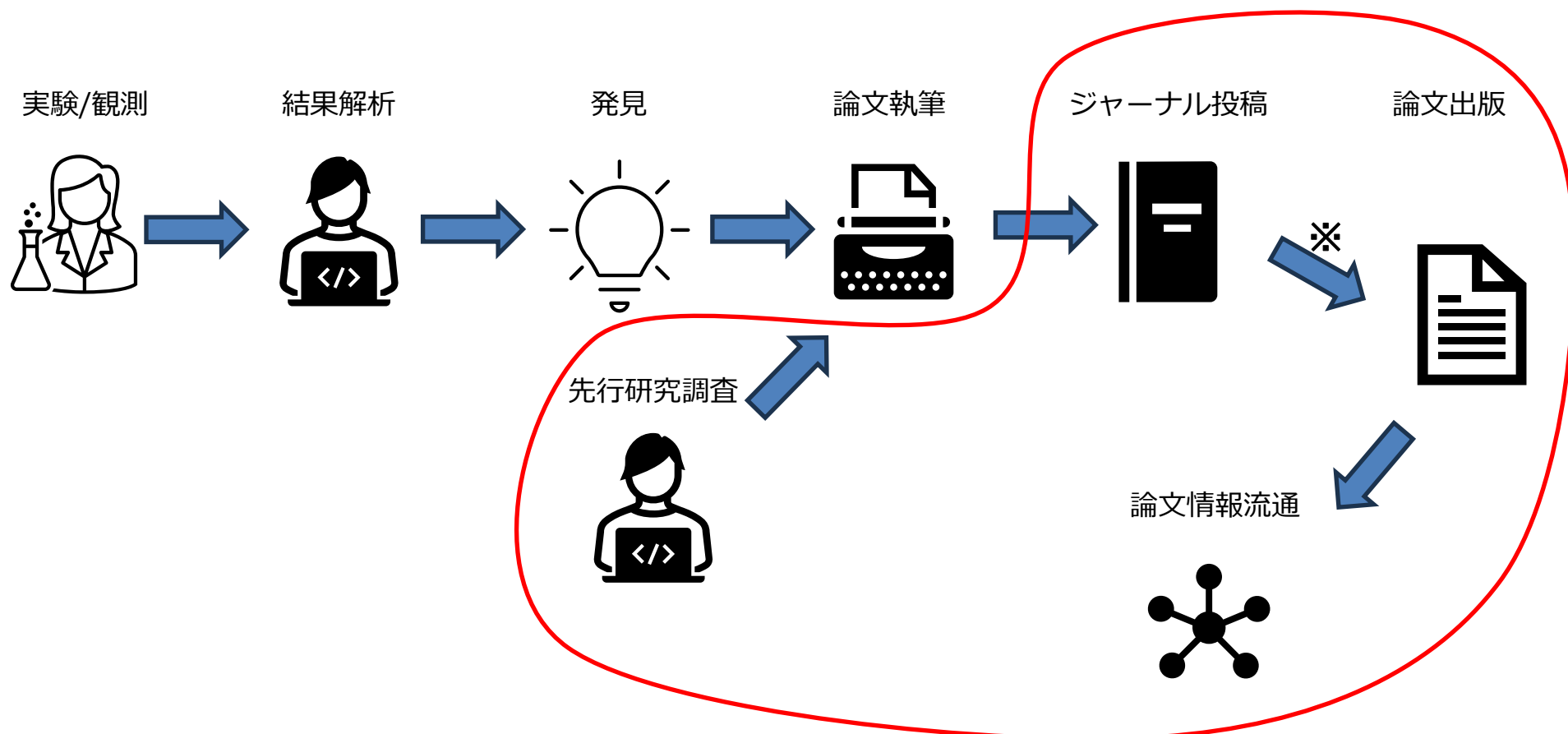
- ジャーナルの方針策定
- コンテンツの責任
- 投稿受付・査読
- 出版 (pdf/XML化、J-STAGEへのアップロード、公開)
- 上記を含む出版費用の負担

JST

システムとサービスの開発・運営

- システム開発：新機能の企画、調達
- システム運用保守
- 外部サービスとの連携契約 (ディスカバリーサービス等)
- 発行機関によるジャーナル改善への協力
- 上記の費用負担

# 学術論文出版 (J-STAGEカバー範囲)



# 発行機関のJ-STAGE利用要件

- (1) **発行機関が日本の団体**であること、又は、科学技術刊行物の発行拠点、編集拠点、連絡拠点その他の発行に係る主要な拠点が日本に存在すること
- (2) **継続的に科学技術刊行物を発行し、これを電子化してJ-STAGEに登載**する体制及びJ-STAGEのシステムを利用する動作環境が整っていること
- (3) 科学技術刊行物の発行の主たる目的の一つが**営利目的ではない**こと
- (4) **オープンアクセスの実現**に積極的に取り組めること

※出典：科学技術情報発信・流通総合システム利用規約第3条2.

# 登載対象コンテンツ

資料種別	中心となる基本的な資料例（JSTにおける分類）
1. ジャーナル	研究基盤情報として研究成果、技術開発成果を研究者、技術者向けに広く流布させることを目的として刊行される、原著論文を主たる記事としている雑誌。広がりをもつ研究者・技術者層から投稿され、研究者・技術者層に広く閲覧されることを前提としているもの、査読を経た記事を含むことが望ましい。
2. 研究報告・技術報告	特定の機関の研究、技術開発、調査の中間成果、活動成果を研究者、技術者向けに広く流布させることを目的として刊行される雑誌、報告書など。個々の記事が原著論文であるものから、短報や紹介記事を掲載したもの。 具体的には、企業が刊行する技報(研究報告、技術報告等)や、大学紀要、研究所報告、研究ファンドの報告書、科学技術レポート、「成果報告書」「成果事例集」「研究紹介」などがあたり、研究ファンドの簡易な成果紹介も含む。
3. 会議論文・要旨集	学協会等が開催する研究集会に発表した研究開発成果の概要をまとめたもの。個々の記事が原著論文であるものから短報のものまで、会議関連の資料全般が対象。 具体的には「会議論文集」「要旨集」「予稿集」「概要集」などとして刊行したもの。事例発表会等の事例集、講義テキストを含む。企業や大学が主催するシンポジウム、セミナー等の会議要旨集を含む。
4. 解説誌・一般情報誌	技術動向や技術応用等を当該分野及び境界領域の研究者、技術者に広く流布することを目的として、実用的な知識、技術紹介、製品紹介などの記事を掲載したもの。また一般向けの科学技術理解増進のための啓蒙的記事を掲載したものや業界ニュース誌を含む。
5. その他	上記①～④の定義に当てはまらない学術誌。 候補として調査資料・統計資料等のコンテンツが挙げられる。



※ 2015年11月追加



# J-STAGE トップ画面 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

The screenshot shows the J-STAGE homepage with the following elements:

- Navigation menu: 資料・記事を探す, J-STAGEについて, ニュース&PR, サポート, サインイン, カート, JA, 検索
- Search bar: J-STAGE上の記事を検索, 検索条件の詳細設定
- Statistics: 5,023,390 記事 (4,760,580 記事), 3,065 資料 (2,630 資料), 25 専門分野
- 注目トピックス: データリポジトリ関連機能, リリースノート
- My J-STAGEにサインイン
- 最新情報: 2020年4月1日
- 新着資料: 年報 体育社会学 (2020/04/15), 音楽教育メディア研究 (2020/04/15), 外国語教育メディア学会関東支部研究... (2020/04/13), 色彩・コミュニケーションデザイン, 島根県立中央病院医学雑誌, 日本VR医学会学術大会プログラム...

- 記事検索窓
- 現在の登載誌数・記事数
- 最新情報(J-STAGEからのお知らせ)
- 注目トピックス
- 新着資料
- 新着号
- 月間アクセス数ランキング(全資料中)等を表示

# 資料トップ画面

## Cell Structure and Function

Cell Structure and Function is an international, peer-reviewed, Open Access journal publishing articles in all areas of molecular and cell biology. Published continuously online, the journal is fully [もっと読む](#)

日本細胞生物学会  が発行

[ジャーナル](#) [査読](#) [オープンアクセス](#) [HTML](#) [早期公開](#)

[DOAJ](#) [SCOPUS](#) [PUBMED](#) [J-STAGE DATA](#)

[資料トップ](#) [早期公開](#) [巻号一覧](#) [この資料について](#)

収録数 1,962本  
(更新日 2024/11/03)

Online ISSN : 1347-3700  
Print ISSN : 0386-7196  
ISSN-L : 0386-7196

2.0  
2023 Journal Impact Factor (JIF)



[J-STAGEトップ](#) / [Cell Structure and Function](#) / [資料トップ](#)

2024年 49巻 2号

Deep learning-based segmentation of subcellular organelles in high-resolution phase-contrast images

Kentaro Shimasaki, Yuko Okemoto-Nakamura, Kyoko Saito, Masayoshi Fukuda, Kazuhiko Katoh, Kentaro Hanada

Molecular alterations associated with pathophysiology in liver-specific ZO-1 and ZO-2 knockout mice

Masahiko Itoh, Kenji Watanabe, Yoichi Mizukami, Hiroyuki Sugimoto

- 資料カバー画像
- データベース (Scopus, PubMed, DOAJ) 収録状況
- データリポジトリアイコン
- 投稿に関する情報へのリンク
- 最新号の主な記事
- 月間アクセス数ランキング
- Journal Impact Factor 等を表示

過去の巻号を選ぶ

巻号  号

論文を投稿する

投稿規程

投稿規程

パスワードの変更

# 「この資料について」画面

## Cell Structure and Function

Cell Structure and Function is an international, peer-reviewed, Open Access journal publishing articles in all areas of molecular and cell biology. Published continuously online, the journal is fully [もっと読む](#)

日本細胞生物学会  が発行

[ジャーナル](#) [査読](#) [オープンアクセス](#) [HTML](#) [早期公開](#)

[DOAJ](#) [SCOPUS](#) [PUBMED](#) [J-STAGE DATA](#)

[資料トップ](#) [巻号一覧](#) **この資料について**

収録数 1,964本  
(更新日 2024/11/17)

Online ISSN : 1347-3700  
Print ISSN : 0386-7196  
ISSN-L : 0386-7196

2.0  
2023 Journal Impact Factor (JIF)



[J-STAGEトップ](#) / [Cell Structure and Function](#) / [この資料について](#)

## Cell Structure and Function

過去の巻号を選ぶ

Cell Structure and Function is an international, peer-reviewed, Open Access journal publishing articles in all areas of molecular and cell biology. Published continuously online, the journal is fully indexed in SCIE, Scopus, DOAJ and other major databases. The official English-language journal of the Japan Society for Cell Biology, CSF welcomes submissions from around the globe.

### Aims and Scope

Cell Structure and Function is a fully peer-reviewed, fully Open Access journal. As the official English-language journal of the Japan Society for Cell Biology, it is published continuously online and biannually in print. Cell Structure and Function publishes important, original contributions in all areas of molecular and cell biology. The journal welcomes the submission of manuscripts on research areas such as the cell nucleus

- 資料の紹介文
- 編集委員一覧
- 分野情報
- 発行機関情報(連絡先)
- データリポジトリ情報 等を表示

巻  号  [閲覧](#)

[論文を投稿する](#) 

[パスワードの変更](#) 

RSSフィード(号) 

# 書誌画面

## Cell Structure and Function

Online ISSN : 1347-3700

Print ISSN : 0386-7196

ISSN-L : 0386-7196

[資料トップ](#) [早期公開](#) [巻号一覧](#) [この資料について](#)

[J-STAGEトップ](#) / [Cell Structure and Function](#) / [49巻 \(2024\) 2号](#) / [書誌](#)

### Reconstitution of nuclear envelope subdomain formation on mitotic chromosomes in semi-intact cells

Tomoko Funakoshi, Naoko Imamoto

[+ 著者情報](#)

キーワード: [nuclear envelope reassembly](#), [inner nuclear membrane protein](#), [nuclear pore complex](#), [semi-intact cells](#), [in vitro reconstitution](#)

[ジャーナル](#) [オープンアクセス](#) [HTML](#)

[J-STAGE DATA](#) [電子付録](#)

2024年 49巻 2号 p. 31-46

[DOI](#) <https://doi.org/10.1247/csf.24003>

[i](#) Browse "Advance online publication" version

[+ 詳細](#)

記事の概要

[抄録](#)

[> 抄録](#)

[本文 \(HTML形式\)](#)

[PDFをダウンロード \(10046K\)](#)

[メタデータをダウンロード](#)

- **タイトル** [RIS形式](#)  
(EndNote、Reference Manager、ProCite、RefWorksとの互換性あり)
- **著者名**
- **キーワード** [BIB TEX形式](#)  
(BibDesk、LaTeXとの互換性あり)
- **DOI** [テキスト](#)
- **抄録** [メタデータのダウンロード方法](#)
- **引用/被引用文献**
- **著者関連情報**
- **Data Availability Statement**  
(関連データとの紐付がある場合)
- **二次利用ライセンス**

☆ お気に入りに登録 [等の書誌情報を表示](#)

# 本文HTML閲覧画面

The screenshot shows the J-STAGE article page for 'Cell Structure and Function'. The article title is 'Cell-wide arrangement of Golgi/RE units depends on the microtubule organization'. The authors listed are Tatsuya Tago, Syara Fuji, Shogo Sasaki, Maki Shirae-Kurabayashi, Naoki Sakamoto, Takashi Yamamoto, Makoto Maeda, Tatsuya Ueki, Takunori Satoh, and Akiko K. Satoh. The article is published in 2024, volume 49, issue 2, pages 101-110. The DOI is https://doi.org/10.1247/csf.24055. The page includes a table of contents on the left and a list of download options on the right, including PDF, RIS, BibTeX, and XML. A red overlay box highlights the XML download option and lists its benefits.

Cell Structure and Function

資料トップ 巻号一覧 この資料について

J-STAGEトップ / Cell Structure and Function / 49巻(2024)2号 / 雑誌 / 本文

Cell-wide arrangement of Golgi/RE units depends on the microtubule organization

Tatsuya Tago, Syara Fuji, Shogo Sasaki, Maki Shirae-Kurabayashi, Naoki Sakamoto, Takashi Yamamoto, Makoto Maeda, Tatsuya Ueki, Takunori Satoh, Akiko K. Satoh

PDFをダウンロード (135409)

メタデータをダウンロード

RIS形式

BIB TEX形式

テキスト

メタデータのダウンロード方法

発行機関連絡先

2024年49巻2号p. 101-110

DOI <https://doi.org/10.1247/csf.24055>

Browse "Advance online publication" version

詳細

Article overview

Abstract

- Abstract
- Introduction
- Result and Discussion
- Materials and Methods
- Author Contributions
- Conflict of Interest
- Funding
- Acknowledgments
- References(40)
- Abbreviations
- Figures (11)
- Supplementary material (7)

共有する

記事の **全文XMLデータ** を作成して登載することで、HTML形式での本文表示が可能

タブレット、スマートフォン等での閲覧にも適している

本文中のサムネイルから電子付録への素早いアクセスが可能

機械可読な形式であり、機械翻訳やビッグデータ解析等の幅広い利活用が期待

# 機能(1) DOI登録

ジャパンリンクセンター(JaLC)と連携し、  
J-STAGEに登載された全記事にDOIを自動的に登録

The screenshot shows a J-STAGE article page with the following details:

- 情報管理** (Information Management) header with Online ISSN: 1347-1597 and Print ISSN: 0021-7298.
- Navigation links: [資料トップ](#), [巻号一覧](#), [この資料について](#)
- Breadcrumb: [J-STAGEトップ](#) / [情報管理](#) / [60巻 \(2017\) 12号](#) / [書誌](#)
- Article Title: トークセッション サイエンスアゴラ2017 トークセッション 人工知能 (AI) との共生：人間の仕事はどう変化していくのか
- Author: 安宅 和人, チェンドミニク, 山口 高平, 山本 勲
- Author Information: [著者情報](#)
- Keywords: AI, 人工知能, I/O, インプット/アウトプット, 意味理解, クオリア, 知的体験, 意思, 非認知能力, 共感, 共生
- Format Selection: [ジャーナル](#) (selected), [フリー](#), [HTML](#)
- Page Info: 60巻 (2017) 12号 p. 865-881
- DOI: <https://doi.org/10.1241/johokanri.60.865> (highlighted in a red box)
- Download Options: [本文 \(HTML形式\)](#), [PDFをダウンロード \(15087K\)](#), [メタデータをダウンロード](#), [RIS形式](#) (EndNote, Reference Manager, ProCite, RefWorksとの互換性あり), [BIB TEX形式](#) (BibDesk, LaTeXとの互換性あり), [テキスト](#), [ダウンロード方法](#)

- ※ DOI(Digital Object Identifier)... デジタルコンテンツに恒久的に与えられる識別子。最新のURLがDOIに紐付けられるため、DOIが分かればコンテンツへの永続的なアクセスが可能。
- ※ Crossref DOIとJapan Link Center (JaLC) DOIから選択(デポジット費:無料)

# 機能 (2) 引用文献リンク

J-STAGEが連携する外部サービス(後述)に登録されている引用文献には、DOI等によるリンクが作成される

## References (42)

- 1) Benedict JD, Forsham PH, Stetten D Jr. The metabolism of uric acid in the normal and gouty human studied with the aid of isotopic uric acid. *J. Biol. Chem.*, 181, 183-193 (1949).
- 2) Garrel DR, Verdy M, PetitClerc C, Martin C, Brulé D, Hamet P, PetitClerc C, Martin C, Bruke D, Hamet P. Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration. *Am. J. Clin. Nutr.*, 53, 665-669 (1991).
- 3) Yu TS, Berger L, Gutman AB. Renal function in gout. II. Effect of uric acid loading on renal excretion of uric acid. *Am. J. Med.*, 33, 829-844 (1962).

## Information of Links

### Linked information

Link [CAS]  
[PubMed]

⊞ Detailed information



The screenshot shows the CAS Reference Linking interface. At the top, it says 'Welcome to CAS from J-STAGE'. Below that, there's a section for 'Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration'. The authors listed are Garrel, Dominique R.; Verdy, Maurice; PetitClerc, Claude; Martin, Christophe; Brule, Danielle; Hamet, Paveil. The journal is American Journal of Clinical Nutrition (1991), 53(3), 665-9. The abstract text is visible at the bottom of the page.



The screenshot shows the PubMed article page for the same article. The title is 'Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration.' The authors are Garrel DR<sup>1</sup>, Verdy M, PetitClerc C, Martin C, Brulé D, Hamet P. The abstract text is visible below the author information.

PubMedやCASに収録されているものは、PubMed/CAS上の書誌情報へのリンクが表示される

# 機能 (3) 被引用リンク

## JaLCの機能により当該記事を引用している記事へのリンクを表示する

J-STAGE 資料・記事を探す J-STAGEについて ニュース&PR サポート

記事の概要

- Fig. S1 Download (PDF)
- Fig. S2 Download (PDF)
- Fig. S3 Download (PDF)
- Fig. S4 Download (PDF)
- Fig. S5 Download (PDF)

抄録

参考文献 (48)

図 (7)

著者関連情報

電子付録 (5)

被引用文献 (4)

共有する

被引用文献 (4)

Lanmei Yin, Qing Yang, Yiming Zhang, et al. Dietary Copper Improves Intestinal Morphology via Modulating Intestinal Stem Cell Activity in Pigs. *Animals*. 2021, Vol.11, No.9, p.2513.

**Lanmei Yin, Jun Li, Yitong Zhang, et al. Changes in progenitors and differentiated epithelial cells of neonatal piglets. *Animal Nutrition*. 2022, Vol.8, p.265.**

Gaofeng Cai, Caihong Wu, Ningning Mao, et al. Isolation, purification and characterization of Pueraria lobata polysaccharide and its effects on intestinal function in cyclophosphamide-treated mice. *International Journal of Biological Macromolecules*. 2022, Vol.218, p.356.

Qiaoli Dong, Yamin Sun, Jingyang Li, et al. LAMTOR1/mTORC1 promotes

リンク情報詳細

■ リンク先情報

Link via doi <https://doi.org/10.1016/j.aninu.2021.10.008>

ScienceDirect

View PDF Download Full Issue

Outline

Abstract

Keywords

1. Introduction

2. Materials and methods

3. Results

4. Discussion

5. Conclusion

Author contributions

Declaration of competing interest

Acknowledgements

References

View full outline

Cited by (5)

Abstract

KeAI

Animal Nutrition

Volume 8, March 2022, Pages 265-276

Start Communication

**Changes in progenitors and differentiated epithelial cells of neonatal piglets**

Lanmei Yin<sup>1,2,3,4,5</sup>, Jun Li<sup>1,2,3,4,5</sup>, Yitong Zhang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Qing Yang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Yiming Zhang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Shuyang Li<sup>1,2,3,4,5</sup>, Tingting Yan<sup>1,2,3,4,5</sup>, Qian Wang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Jiaofang Li<sup>1,2,3,4,5</sup>, Hongchi Shao<sup>1,2,3,4,5</sup>, Diyiya Zhang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Huihui Zhang<sup>1,2,3,4,5</sup>, Yitong Zhang<sup>1,2,3,4,5</sup>

Show more

Add to Favorites Share Cit

https://doi.org/10.1016/j.aninu.2021.10.008

Under a Creative Commons license



# 機能(4) 早期公開

- 巻・号や開始ページ等が確定した出版版でなくても、採択した記事を先行して公開できる機能
- 正式に出版が確定した後、通常公開記事として再公開

Biological and Pharmaceutical Bulletin

Online ISSN : 1347-5215  
Print ISSN : 0918-6158  
ISSN-L : 0918-6158

資料トップ **早期公開** 巻号一覧 おすすめ記事 この資料について

J-STAGEトップ / Biological and Pharmaceutical ... / 早期公開

早期公開論文

早期公開論文の15件中1~15を表示しています

メタデータをダウンロード 全ての抄録を表示する

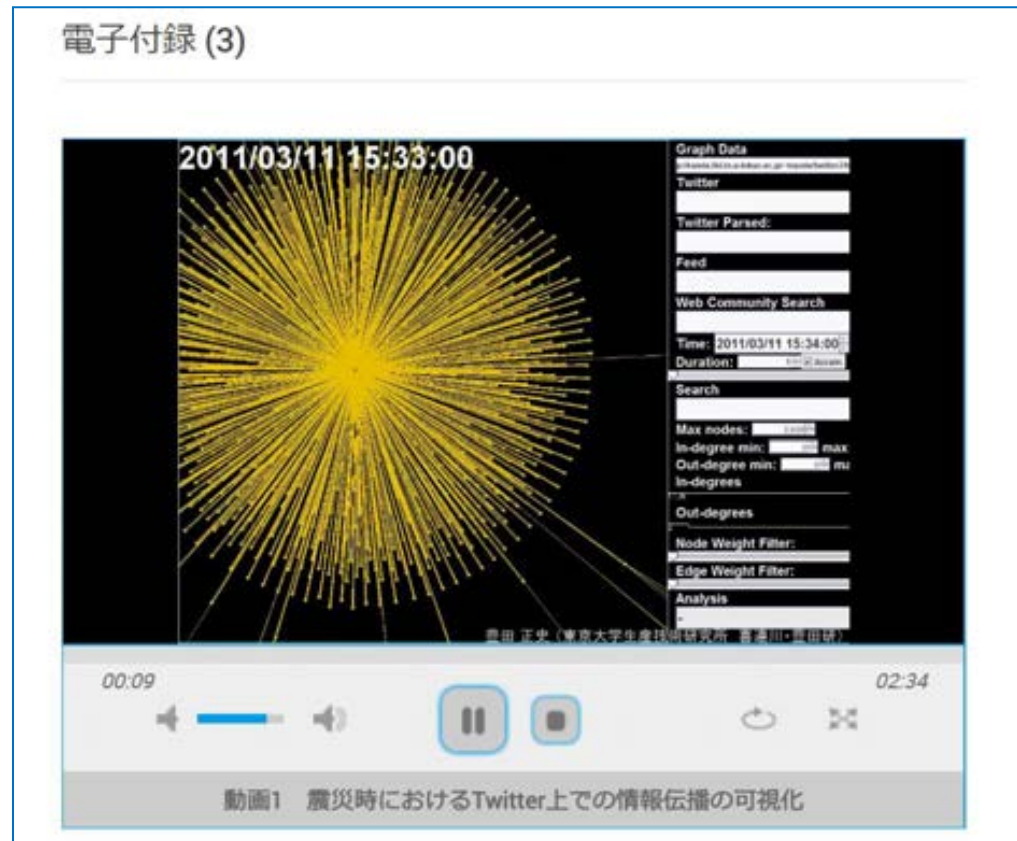
早期公開論文  
編集・出版前の最終版論文をオンラインで提供しています。

Three-Dimensional Culture of Umbilical Cord Mesenchymal Stem Cells Effectively Promotes Platelet Recovery in Immune Thrombocytopenia  
Xiangcui Gong, Di Sun, Zhenghao Li, Qing Shi, Dong Li, Xiuli Ju  
論文ID: b19-01069  
発行日: 2020年  
[早期公開] 公開日: 2020/04/21  
DOI <https://doi.org/10.1248/bpb.b19-01069>  
ジャーナル フリー **早期公開**  
抄録を表示する PDF形式でダウンロード (1291K)

Increased Vancomycin Clearance in Patients with Solid Malignancies

# 機能 (5) 電子付録

冊子体では提供できない動画、音声、高精細写真などを論文の付録として公開できる機能



# 機能(6) 認証機能

J-STAGEトップ / 購読者認証

## 購読者番号でサインイン

購読者番号

パスワード

**サインイン**

購読者番号とは、論文の発行機関が管理し設定している番号です。  
**My J-STAGE IDと購読者番号は異なります。**  
購読者番号については発行機関へ直接お問い合わせください。  
発行機関の連絡先は[こちら](#)へ。

※購読者番号はJ-STAGEセンター宛にお問い合わせいただいても、回答できません。

## この論文を購入する

この論文を購入したい場合は、ショッピングカートにお入れください。ショッピングカートに入れたアイテムは、1日後に自動的に削除されますのでご注意ください。

**ショッピングカートに入れる**

記事の抄録部分はすべての閲覧者に公開されるが、本文PDF等に対し記事単位で認証(アクセス制限)をかけることが可能

- ID/パスワード認証
- IPアドレス認証
- Pay per View(記事単位での購入)

# 機能 (7) アクセス統計・COUNTERレポート機能



サービス管理 > アクセス統計レポートダウンロード確認

アクセス統計

ダウンロードしたい統計データを確認の上、「ダウンロード開始」ボタンをクリックしてください。  
※アクセス統計とアクセス数ランキングはクローラーの集計方法が異なるため数値が異なる場合がございます。予め、  
※ジャーナルアーカイブ記事のアクセス統計が必要な場合はJ-STAGEセンターまでお問い合わせ下さい。

集計開始年月	2024年10月
集計終了年月	2024年10月
統計データ区分	アクセス統計レポート
資料コード	johokanri
ファイル名	johokanri_202410start_202410end_report.zip

戻る



COUNTER Sign-in

• Sign in with User ID

User ID

Password

[Register](#)  
[Forgot your password?](#)

Sign-in



REGISTRY

COUNTER COMPLIANT PLATFORMS

NOTIFICATIONS OF ISSUES AND DATA UPDATES

USAGE DATA HOSTS

JSTAGE Japan Science & Technology Agency

5-3, Yvembancho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8666  
jstage.or@jst.go.jp  
https://www.jstage.jst.go.jp/

Hosted platforms

Abbreviation	Platform name	Host type	Content provider	Website	COUNTER releases
J-STAGE	J-STAGE	eJournal	Japan Science & Technology Agency	https://www.jstage.jst.go.jp/	1

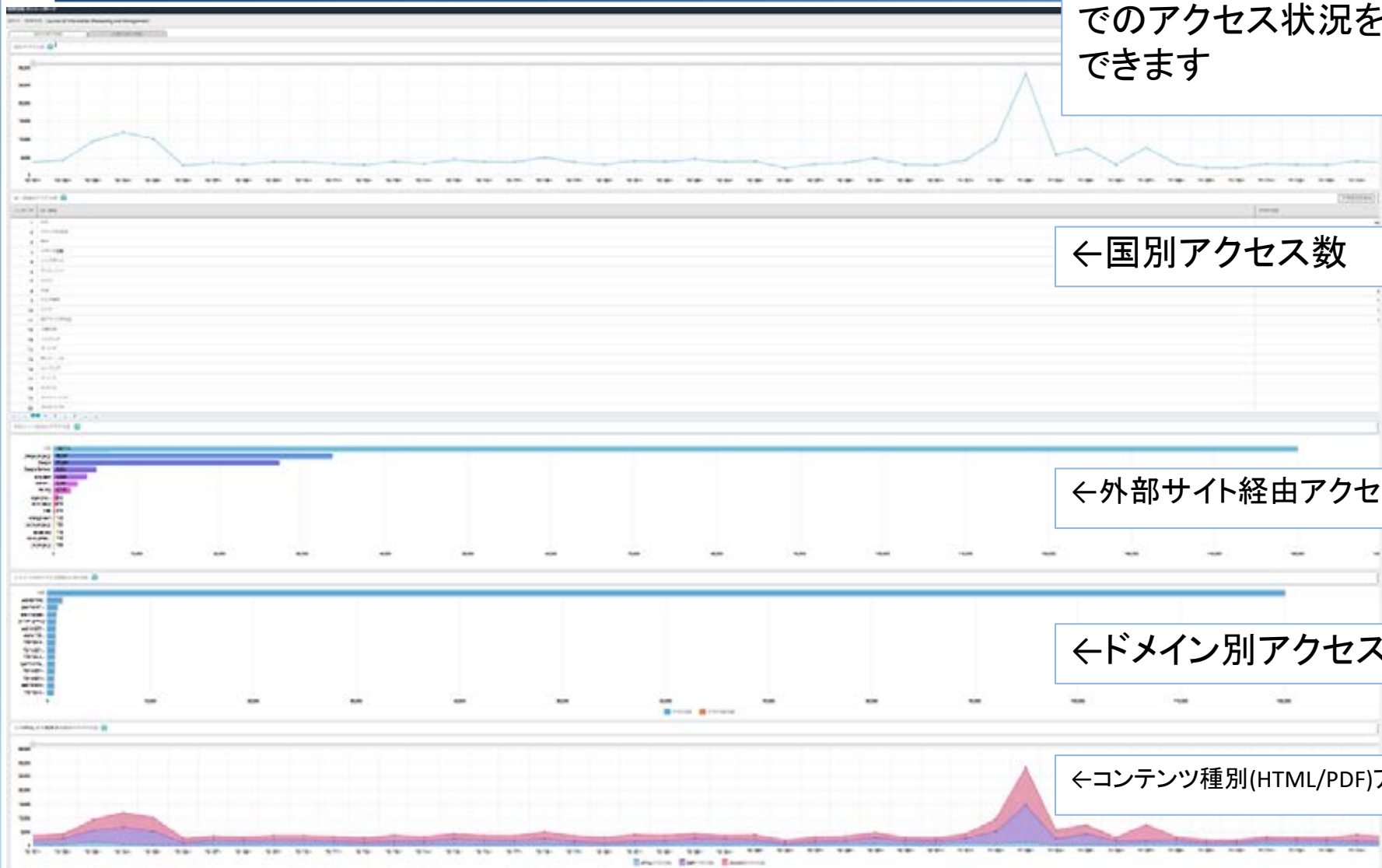
Audits

current status: ● Currently valid audit

Start date	Completion date	Finished	Accepted	Audit result
2023-01				
2024-01	2024-04	✓	✓	Passed

# 機能(8) ダッシュボード機能

ジャーナル単位/記事単位でのアクセス状況を分析できます



←国別アクセス数

←外部サイト経由アクセス数

←ドメイン別アクセス数

←コンテンツ種別(HTML/PDF)アクセス数

# 機能 (9) バーチャルイシュー機能

Dental Materials Journal

Online ISSN : 1881-1361  
Print ISSN : 0287-4547  
ISSN-L : 0287-4547

Journal home Advance online publication All issues **Virtual issue** About the journal

J-STAGE home / Dental Materials Journal / Virtual issue / Distinguished Paper Award

## Distinguished Paper Award

Published: October 07, 2024 Updated: October 08, 2024

Displaying 1-16 of 16 articles

自ジャーナルの別々の巻号から記事をピックアップして一つの号として発行することができます。

< 1 >

### Distinguished Paper Award 2023

Volume 42 (2023) Issue 1 Pages 121-132 Published: October 07, 2024

#### Bond durability of a two-step adhesive with a universal-adhesive-derived primer in different etching modes under different degradation conditions

Toshiki TAKAMIZAWA, Eizo HIROKANE, Keiichi SAI, Ryo ISHII, Ryota AOKI, Wayne W. BARKMEIER, Mark A. LATTA, Masashi MIYAZAKI

This study investigated the enamel and dentin bond durability of a two-step adhesive system, using a universal adhesive-derived primer (G2-Bond Universal [GU]), and compared it with the two conventional, two-step, self-etch adhesive systems (Clearfil SE Bond 2 [CS] and OptiBond XTR [OX]) under thermal cycling (TC) and long-term water storage (WS). The shear bond strengths to bovine enamel and dentin were determined using the etch-and-rinse and self-etch modes. Twelve specimens per test group were prepared and further divided into the following subgroups: 1) subjected to TC, 2) long-term WS, and 3) WS for 24 h.

[Read more](#)

Volume 42 (2023) Issue 3 Pages 319-326 Published: October 07, 2024

#### Bone augmentation with a prototype coral exoskeleton-derived bone replacement material applied to experimental one-wall infrabony defects created in alveolar bone

Hiroyuki IKEDA, Tomohiro OKAMURA, Tomonori NISHIKAWA, Makoto KODAYASUJI, Naohiko HASEGAWA, Kenji TOMIYAMA, Tetsuo ICHIO

# 機能 (10) その他オプションサービス (有料)

## 投稿審査システム (Editorial Manager/ScholarOne Manuscripts)

原稿の投稿や査読依頼等、編集の進捗状況を管理できるツール

## Similarity Check/類似性チェックサービス (Turnitin)

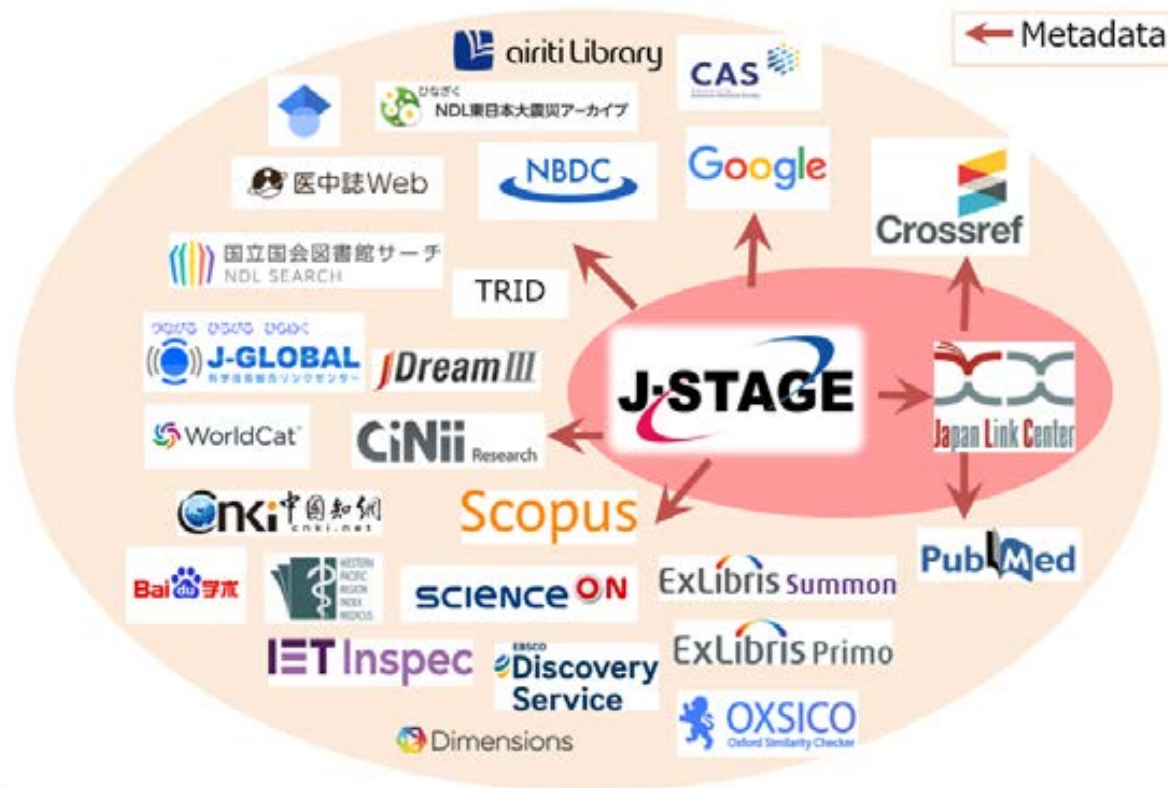
過去に出版された論文/Webコンテンツ等とテキストマッチングをかけて類似度を算出する剽窃検知ツール

Crossref DOI向け・・・J-STAGE Similarity Check

JaLC DOI向け・・・・・・J-STAGE類似性チェックサービス

# 外部サービスとの連携

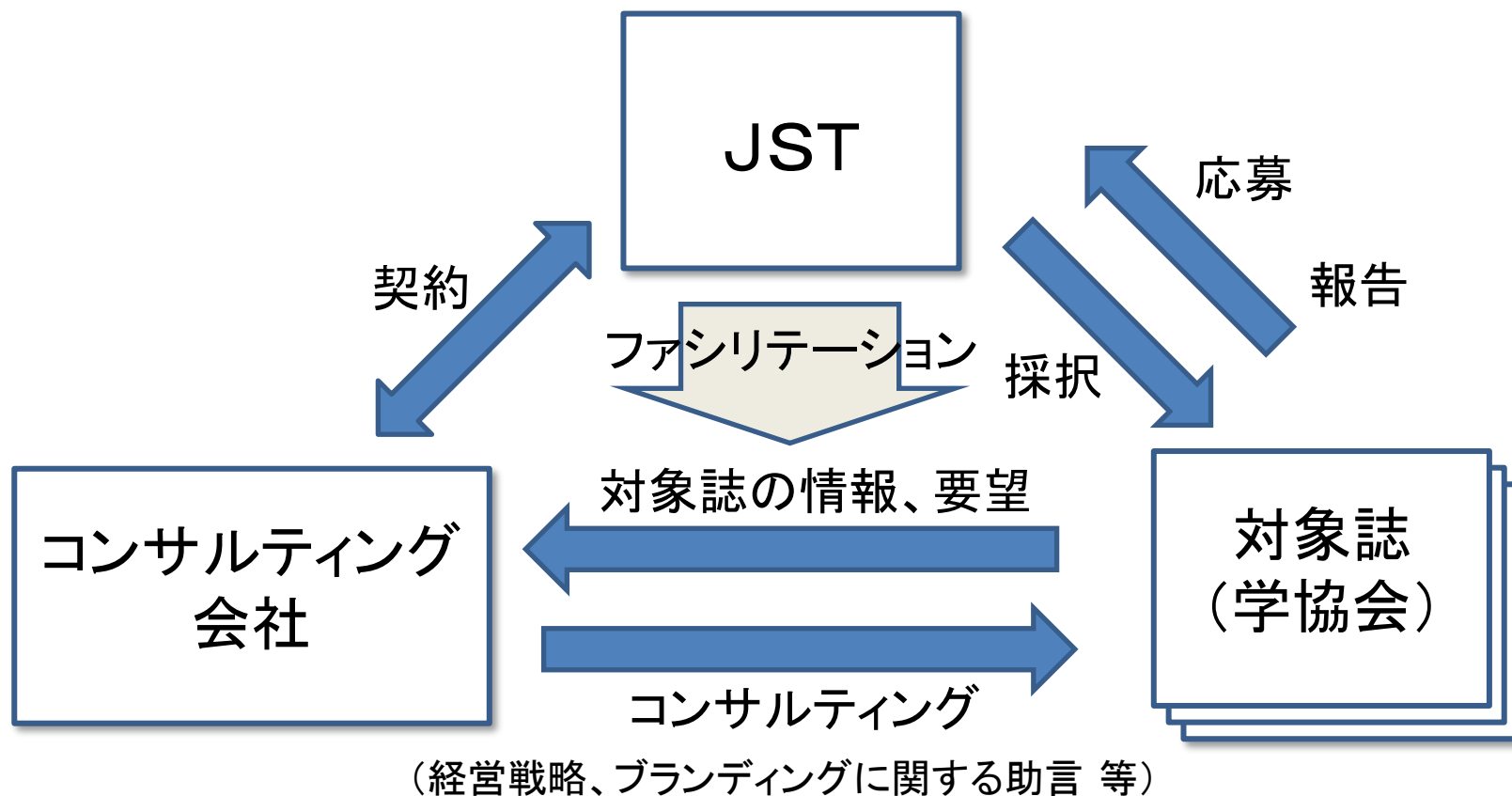
- 外部サービスからの検索・アクセスを可能にすることで閲覧機会が向上
- 既存の連携サービスとの連携内容の強化及び拡大、新規サービスとの連携確立を目指す
- 政策検討・学術研究目的での掲載データ個別提供もしている  
例：e-CSTI(内閣府エビデンスシステム)





# ジャーナルコンサルティング

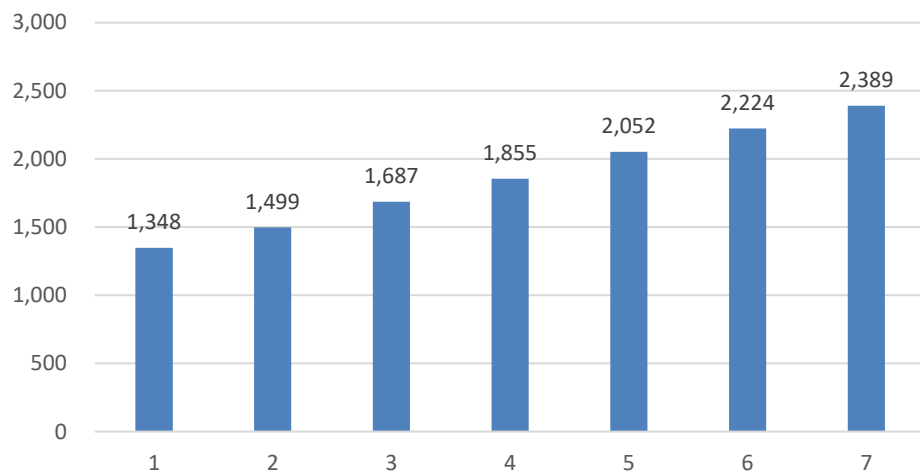
J-STAGE掲載誌の質向上を目指す利用機関に対して、個別事情を踏まえたコンサルティングを行い、ジャーナルの質向上のための課題解決に向けた協力を行う。



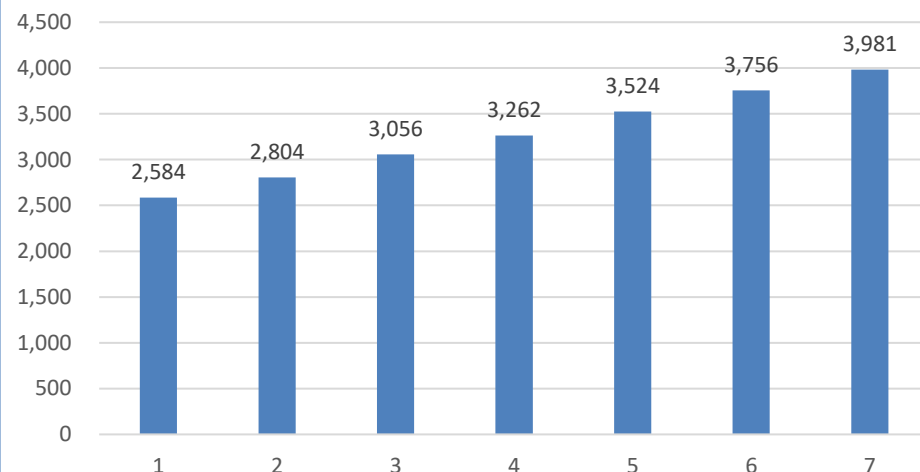
# ファクトデータ ① 登載資料関連

※令和6年3月末時点

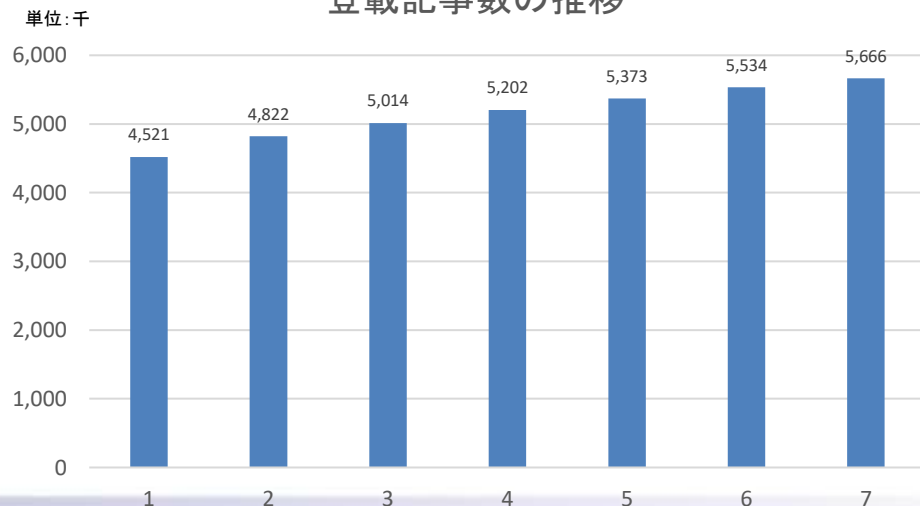
### 発行機関数の推移



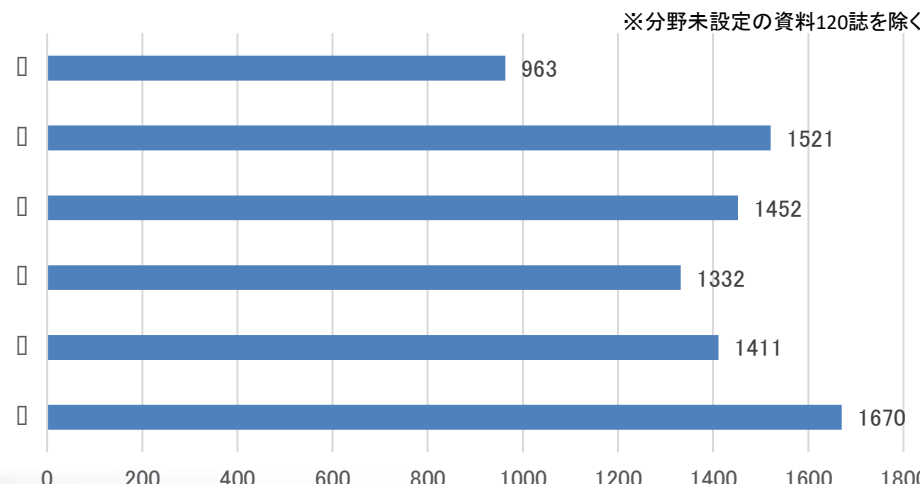
### 登載誌数の推移



### 登載記事数の推移



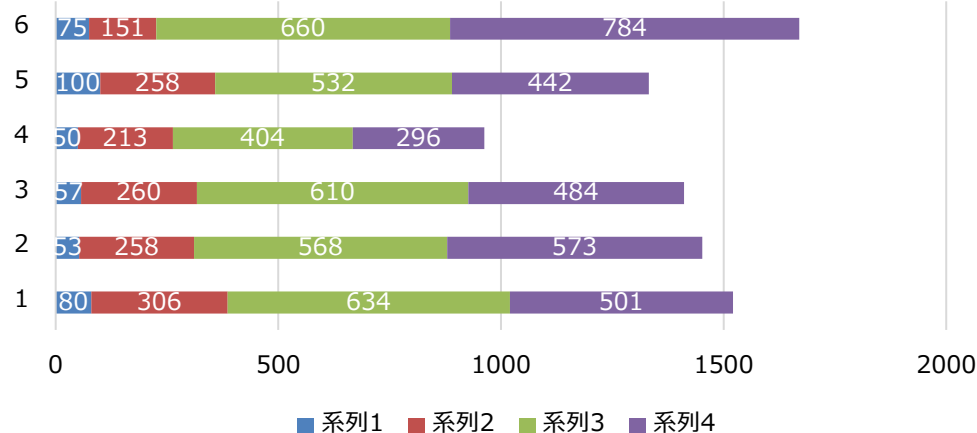
### 登載誌数の分野(大分類)※2024/3/31



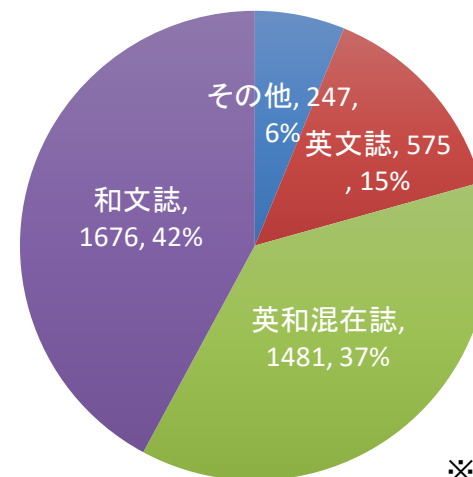
# 登載誌の種別

## 登載誌の分野・言語内訳

※令和5年度末時点 ※分野未設定の120誌を除く

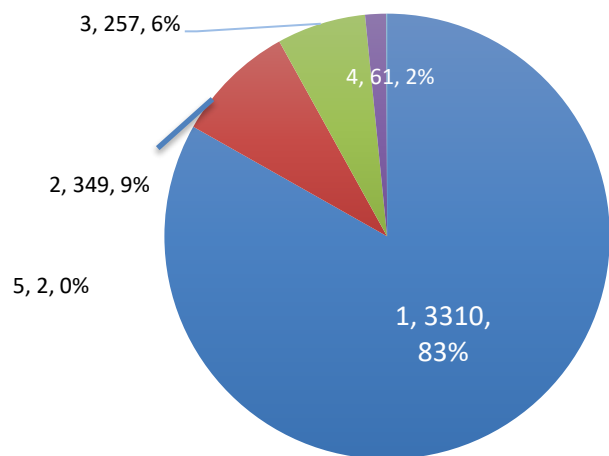


## 言語種別



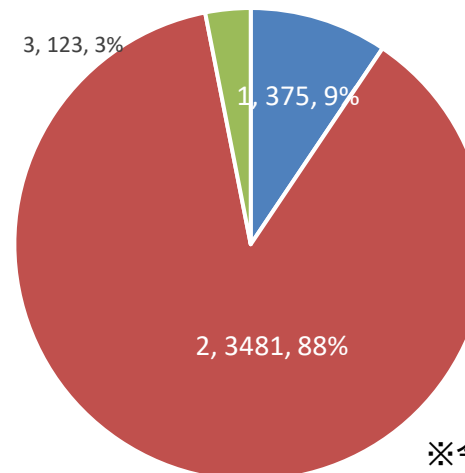
※令和5年度末時点

## 資料種別



※令和5年度末時点

## 認証/フリー・オープンアクセス種別



※令和5年度末時点

# 発行機関数・誌数・記事数

※令和6年3月末時点

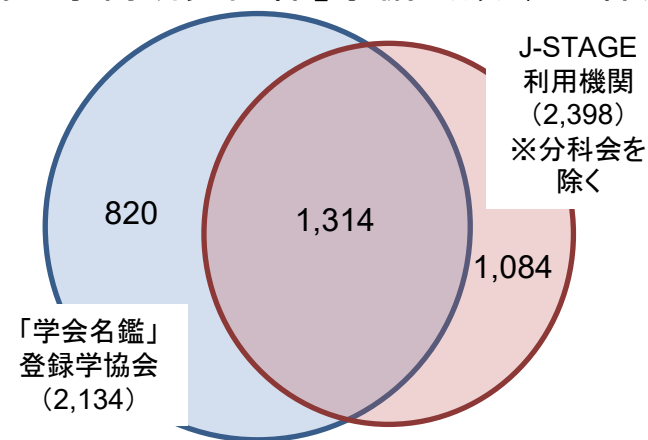
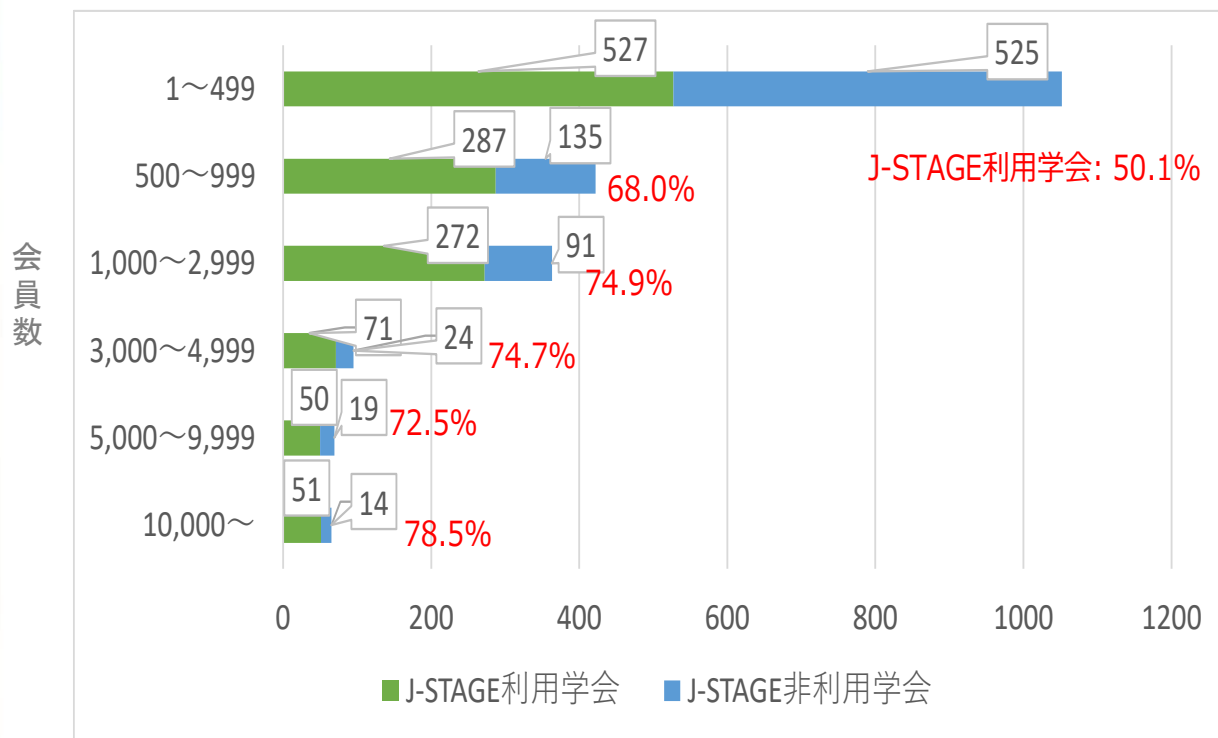
発行機関数 2,398機関

誌数 3,981誌

記事数 5,666,066記事

わが国の学協会の約半数が利用

(参考:日本学術会議の活動に協力する「協力学術研究団体」学協会数2,134件)

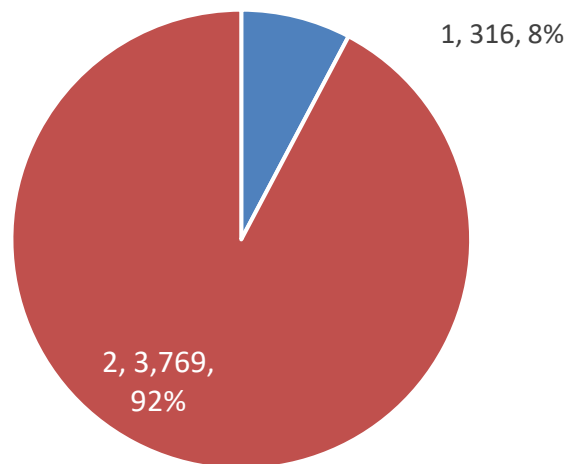


学会名鑑2022/3/31時点の個人会員数を元に作成

学会名鑑非掲載学会、個人会員を報告していない学会あるいは個人会員数がない学会は対象外

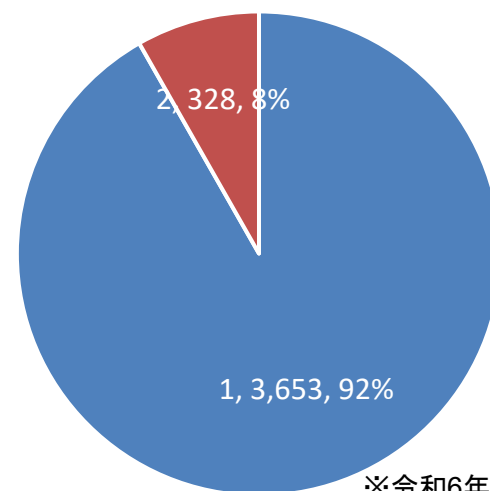
# OA誌、XML記事登載誌(全登載誌)

OA種別



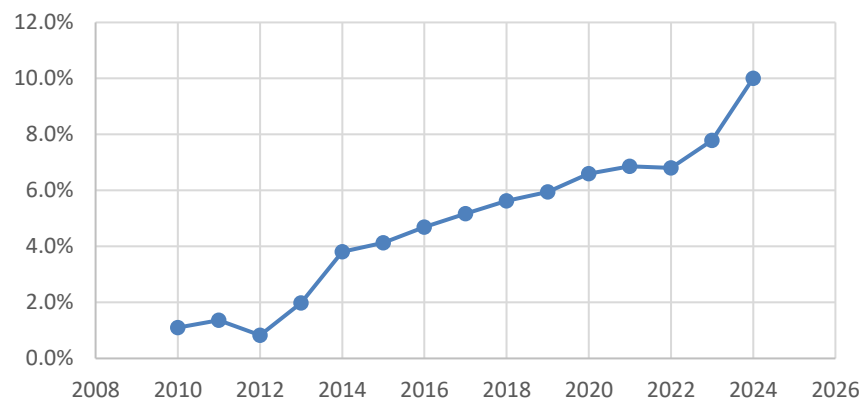
※令和6年9月20日時点  
OA誌は5記事以上CCライセンスを付与している記事に限定

早期公開



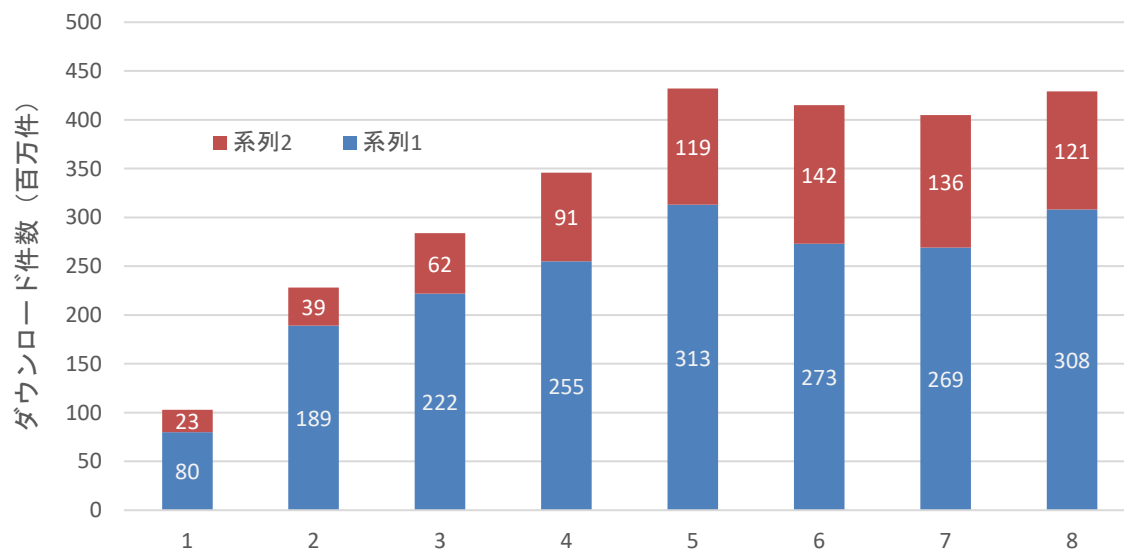
※令和6年3月末時点

HTML記事数の割合(資料種別ジャーナル)



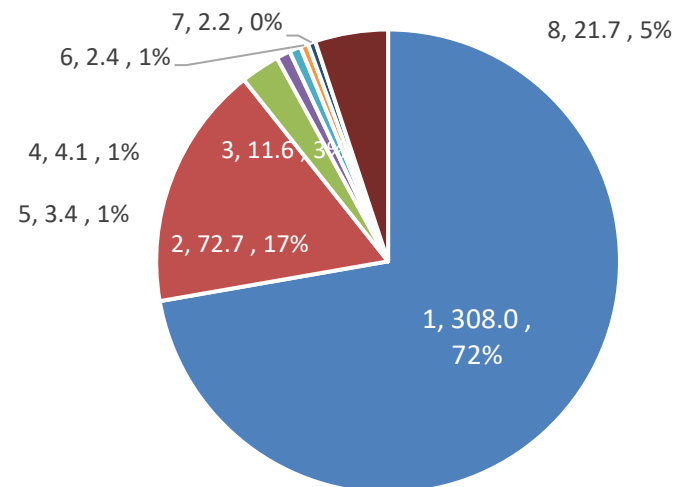
# ダウンロード数の推移、国・地域別

## ダウンロード数の推移



※令和6年3月末時点

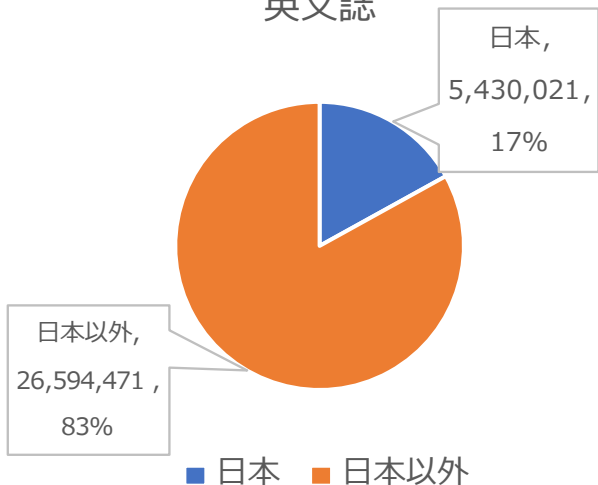
## 国・地域別ダウンロード数 (2023/4-2024/3)



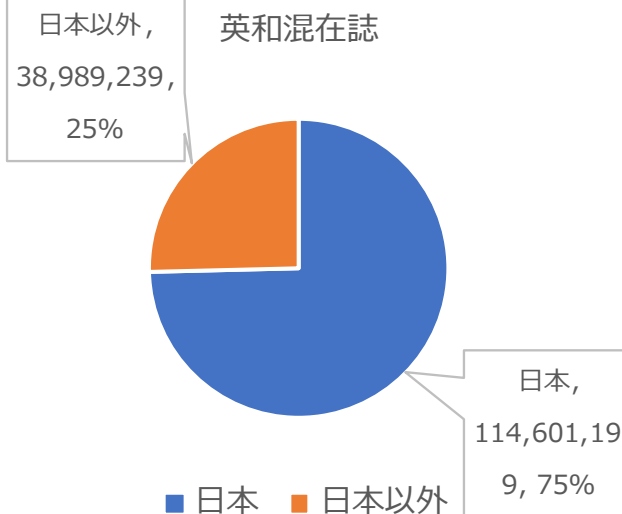
日本	308.0 百万件
アメリカ	72.7 百万件
中国	11.6 百万件
ドイツ	4.1 百万件
フランス	3.4 百万件
イギリス	2.4 百万件
インド	2.2 百万件
その他	21.7 百万件
合計	426.3 百万件

# ダウンロード数 (言語種別)

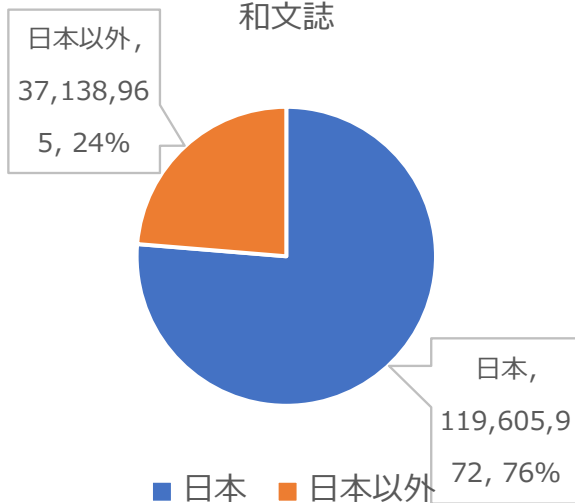
## 英文誌



## 英和混在誌



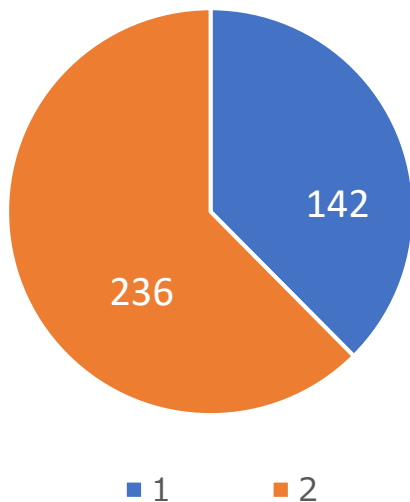
## 和文誌



※令和4年度1年間

# 日本発ジャーナルのインパクトファクターとプラットフォーム

JIF(2024年発表)を持つ  
日本発のジャーナル378誌  
の登載プラットフォーム内訳



※ 分野の四分位

そのジャーナルの分野内で、JIF順にジャーナルを並べた場合の相対的な位置。

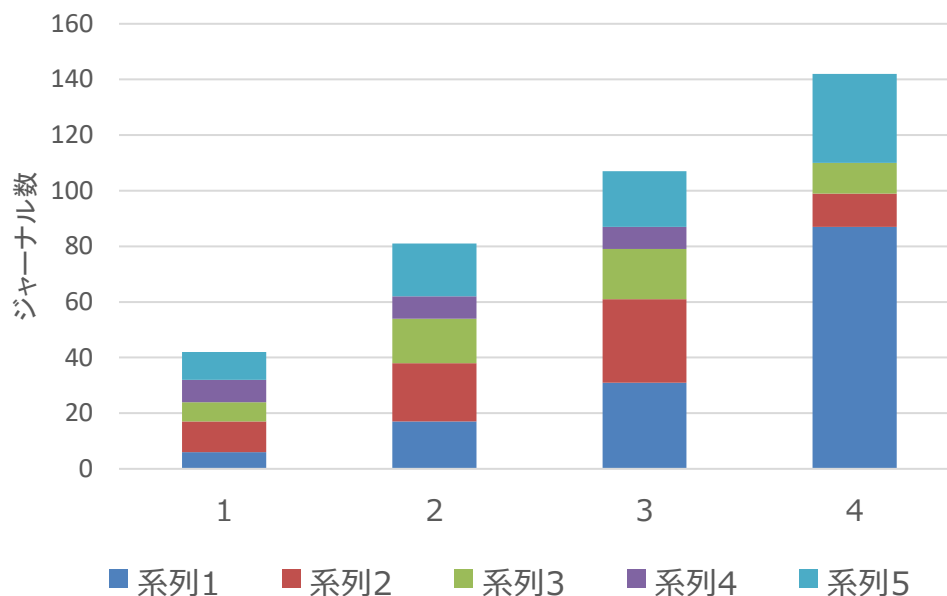
Q1～Q4まであり、Q1が最も高い。

[https://clarivate.com/webofsciencegroup/wp-content/uploads/sites/2/2021/01/4\\_QRC\\_WoS\\_JP\\_20201204.pdf](https://clarivate.com/webofsciencegroup/wp-content/uploads/sites/2/2021/01/4_QRC_WoS_JP_20201204.pdf)

※ JCRにおける発行国「JAPAN」のほか、個別調査により発行機関が日本であることが判明したものも含む。

※ J-STAGEをプライマリーとしてカレント誌を公開している場合にのみJ-STAGEとしてカウント。

ジャーナルインパクトファクター(2024年発表)を持つ約2万2千誌のうち、日本発のジャーナルの登載プラットフォームの四分位ごと分布





# J-STAGE中長期戦略の改定（2024）

ジャーナルを取り巻く環境の急速な変容に戦略的に対応する為、J-STAGE事業推進の基本姿勢及び施策を中長期戦略として取りまとめた（2019年3月公開）。本戦略の改定版を2023年度に有識者委員会にて策定した（2024年5月公開）。今後5年先までのロードマップも併せて公開した。

## 【事業推進の基本姿勢】

基本姿勢1	電子ジャーナルプラットフォーム機能の維持及び新たな要請への対応
基本姿勢2	「我が国のジャーナルの強化」にかかる学協会との連携の深化及び共創
基本姿勢3	システム開発やサービス提供の手段の最適化によるJ-STAGEサービスの品質向上
基本姿勢4	登載情報の整備と積極的発信

## 施策の展開方向及び取組内容

- 1) 我が国の電子ジャーナルの基本的機能の開発及び維持
  - ・世界標準への準拠（**全文情報のXML化、メタデータ充実**）
  - ・コンテンツの保全、セキュリティの強化
- 2) 目的や状況に応じたジャーナルの強化
  - ・学協会との連携深化と**関係機関も参加した先進的コミュニティ**
  - ・目的や状況に特化した機能あるいはサービスの提供
- 3) 新たな時代の要請への対応
  - ・J-STAGEがカバーする研究ワークフロー及びコンテンツの拡大
  - ・研究成果の利用促進に資する取り組み
  - ・**即時オープンアクセス化への対応**

# J-STAGE Dataについて

# 研究データの公開の必要性

- ✓ オープンサイエンス、データ駆動型研究の潮流
- ✓ 研究不正の防止、研究の透明性の担保



大学・研究機関・研究助成機関だけでなく、ジャーナルにおいてもデータの公開や共有に関するポリシーの整備が進んでいる



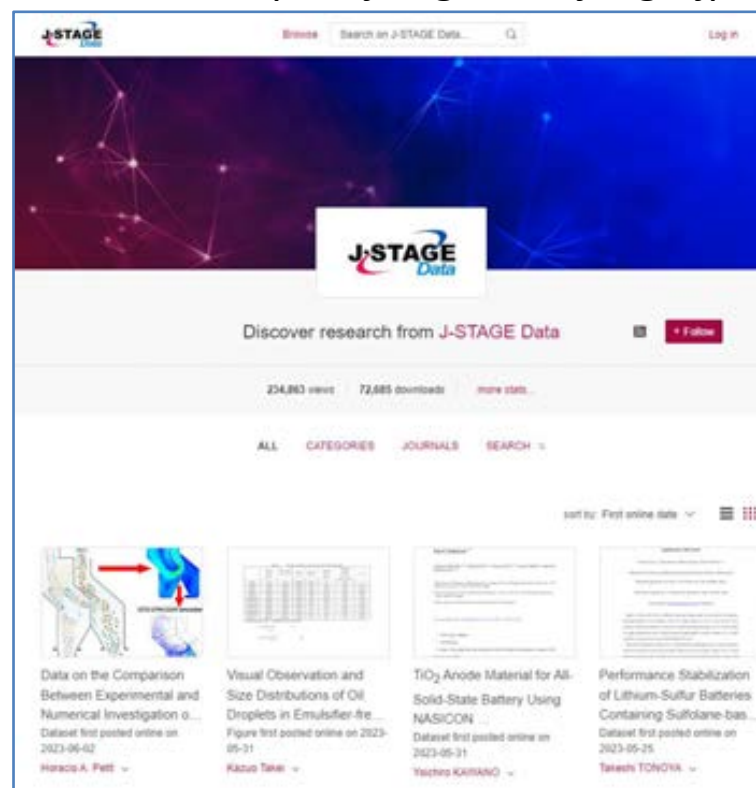
研究者が研究成果論文を発表する際、その根拠となるデータの公開を求められる場面が、ますます多くなりつつある

- 2022年に改定された「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」においても、「研究データのうち、研究成果論文のエビデンスとなる研究データは原則として公開とする。」と明記

# J-STAGE Data とは

- J-STAGEの登録論文に関連するデータを登録・公開するデータリポジトリ
- 2020年3月リリース
- すべてのデータにはJaLC DOIおよびCCライセンスが付与され、オープンアクセスで公開、ダウンロード・再利用が可能
- ジャーナル編集委員会で査読・承認されたデータのみ公開
- 2024年10月末時点で99誌が利用を申し込み、53誌から853データが公開されている

<https://jstagedata.jst.go.jp/>



# データ画面

The screenshot displays the J-STAGE Data interface for a specific dataset. The page includes a header with the J-STAGE logo, a search bar, and a 'Log in' link. Below the header, there are preview images of the dataset, including a diagram and a file icon labeled 'ARCHIVE'. A pink callout box points to these images with the text 'データのプレビュー画像'. The main content area features the dataset title, a 'File' button, and a 'Download all (637.16 kB)' button. A pink callout box points to the title with the text 'タイトル'. Below the title, the author's name 'Horacio A. Petit, Edgardo Fabián Irassar' is listed, with a pink callout box pointing to it labeled '著者名'. The abstract text describes the dataset's use in analyzing the performance of a throat classifier. A pink callout box points to the abstract with the text '著者名'. The 'Experimental conditions' section lists details like 'Feed material: Manufactured sand (Granitic)' and 'Air velocity at the throat: 3.8-7.75 m/s'. The 'FUNDING' section mentions 'Consejo Nacional de Investigaciones Cientificas y Tecnicas'. The 'HISTORY' section shows the first online date as '2023-06-02'. The 'RELATED MATERIALS' section includes a link to a related article. A pink callout box points to this link with the text 'データに言及している論文へのリンク'. The 'KEYWORDS' section lists 'manufactured sands', 'air classification', 'CFD-DEM', 'stone dust', and 'aggregates', with a pink callout box pointing to them labeled 'キーワード'. The 'LICENCE' section shows 'CC BY 4.0', with a pink callout box pointing to it labeled '二次利用ライセンス'. The 'CORRESPONDING AUTHOR EMAIL ADDRESS' is 'hpetit@fio.unicen.edu.ar', with a pink callout box pointing to it labeled '連絡先メールアドレス'. The 'COPYRIGHT' section shows '© 2023 The Author(s)', with a pink callout box pointing to it labeled '著作権表示'. On the right side, there are 'USAGE METRICS' showing 8 views, 12 downloads, and 0 citations, with a pink callout box pointing to them labeled '閲覧数、ダウンロード数、被引用数'. There is also a 'Is supplement to' section with a link to a related article.

データのプレビュー画像

タイトル

閲覧数、ダウンロード数、被引用数

著者名

データに言及している論文へのリンク

キーワード

連絡先メールアドレス

二次利用ライセンス

著作権表示

# 論文とデータの相互リンク

J-STAGEに論文付随データの情報を表示

J-STAGE Dataへジャンプして  
論文付随データを閲覧

The image shows a workflow for linking a paper to its data on J-STAGE. On the left, a paper titled "Simulation of the Classification of Manufactured Sands in the Throat Air Classifier" is displayed. A red arrow points to the "Download PDF" button. A blue box labeled "関連付け" (Link) has arrows pointing from the paper's "Data Availability Statement" section to the "J-STAGE Data" page. The "Data Availability Statement" section contains the text: "The data have been deposited in J-STAGE Data (link here [1]).". On the right, the "J-STAGE Data" page is shown, displaying the data title "Data on the Comparison Between Experimental and Numerical Investigation of the Throat Air Classifier" and a "Download all" button. A blue box labeled "J-STAGEの論文へのリンクをクリック" (Click the link to the J-STAGE paper) points to the "Data Availability Statement" section of the paper. Another blue box labeled "J-STAGE Dataへのリンクをクリック" (Click the link to J-STAGE Data) points to the "Download all" button on the data page.

• Data Availability Statement※

※利用可能なデータの所在等に関する記述

• 公開日  
• データタイトル  
• 著者名  
等のメタデータ


データ  
プレビュー

# 論文付随データ 公開の例


日本気象学会  
気象集誌

シミュレーション結果の生データをJ-STAGE Dataから公開  
第三者による再利用が可能に

J-STAGE Dataからのデータの公開



3 GB以上の巨大なデータセット



J-STAGEからの論文の公開

日本質量分析学会  
Mass Spectrometry 誌 MSJ  
The Japan Electrostatic Society of Japan

論文に示した質量分析スペクトル（グラフ）の生データをJ-STAGE Dataから公開  
信頼性の検証やスペクトルのデータベース化が可能に

J-STAGE Dataからのデータの公開



スペクトルの生データ (csv形式)



スペクトルの生データは、ジャーナルのウェブサイトから無償で公開されているビューアーで可視化することができる

J-STAGEからの論文の公開

# プレプリントサーバ「Jxiv」について



# COVID-19を契機に急増するプレプリント

医学系プレプリントサーバmedRxivでのコロナ関連論文数の推移

(2020年1月1日～4月17日)

<https://www.medrxiv.org/>

出典: +Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020

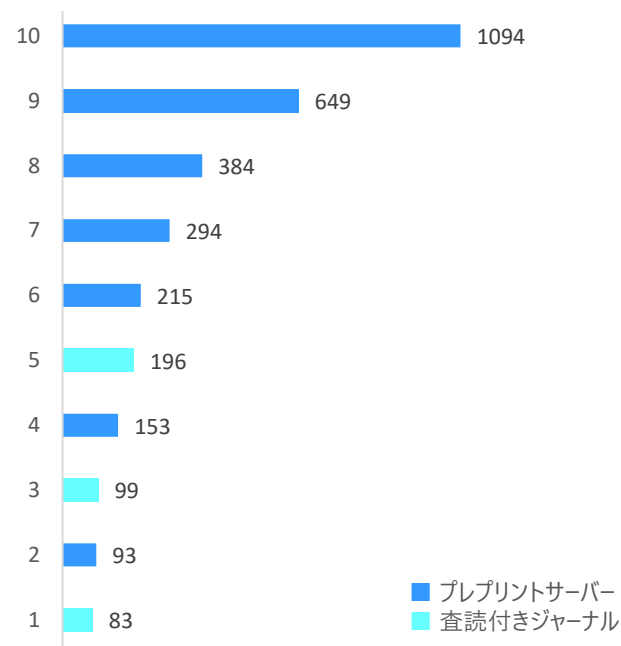


論文データベースDimensionsでの  
コロナ関連論文数上位サイト(2020年4月21日時点)

<https://www.dimensions.ai/>

出典: +Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020

コロナ関連論文は上位10サイト中7サイト  
がプレプリントサーバ



# 2022年3月24日より運用開始

## 日本発の プレプリントサーバ

# Jxiv

[ジェイカイク]



- プレプリント（査読前論文）にDOIを付与、オープンアクセスで公開
- 全分野を対象、日本語、英語のプレプリント公開
- 投稿者はresearchmapまたはORCIDのIDを所持する研究者に限定
- 閲覧はアカウント不要、無料で誰でも可能

# プレプリントサーバの例

---

## ●さまざまな分野

物理学: arXiv (1991-)      生命科学: bioRxiv (2013-)  
化学: ChemRxiv (2017-)      医学: medRxiv (2019-)  
社会科学: SSRN (1994-)

## ●さまざまな地域

中国: ChinaXiv (2016-)  
インドネシア: RINarxiv (前身: INArxiv:2018-)  
ブラジル、アルゼンチンなど: SciELO Preprints (2020-)

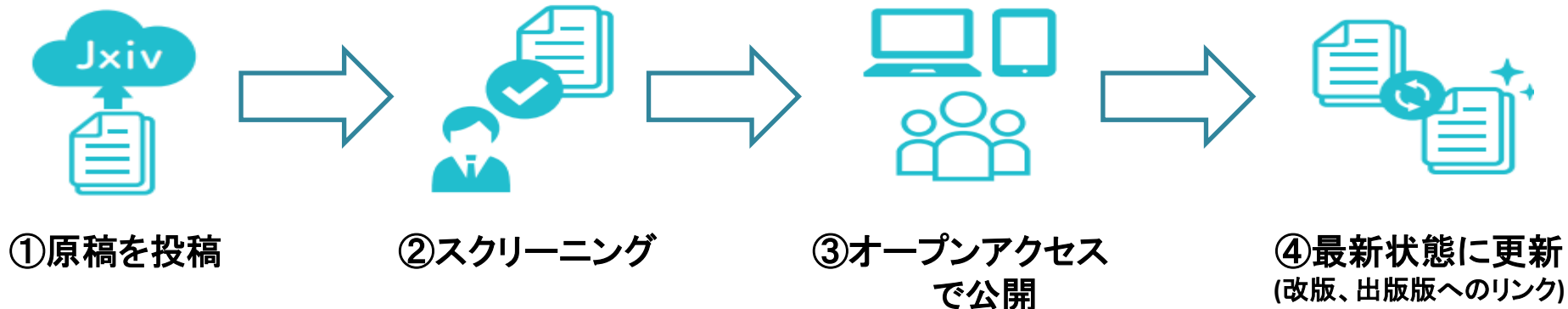
# プレプリントサーバによる研究成果の早期公開

## 日本のプレプリントサーバの必要性

- COVID-19等でプレプリントサーバを利用した研究成果の発表、早期の活用が進められ、威力を発揮していたが、日本語で投稿できるプレプリントサーバは現状なかった。
- arXiv等、分野別プレプリントサーバはあるが、海外でも確立されていない分野がある（学際分野等）。

「人文学や社会科学分野では、特定の文化の哲学、歴史、文学、社会、法律、経済等に特化した研究が多いこともあり、当該地域の言語で出版することにより、さらに深い理解と知識の共有が可能となります。」（出典：[筑波大学 F1000との連携プレス](#)）
- 研究分野別プレプリントサーバのみならず、言語・地域別のプレプリントサーバも各国から立ち上がる現況において、我が国に拠点を置くプレプリントサーバはなく、海外から出遅れてしまっていた。

## 投稿から公開までの流れ



## 効果

- ジャーナルに投稿され査読を経て出版されるのに先立ち、研究成果を公表できる。
- 迅速な成果公開により研究のサイクル加速、研究コミュニティの活性化が期待される
- 緊急を要する課題については、査読を待たずにプレプリントで議論が進められる。
- 研究成果のオープンアクセス公開が可能。
- Google Scholarと連携しており、広く読まれる。

URL

<https://jxiv.jst.go.jp/>

# Jxiv画面

**公開画面**

言語切り替え

注意書き文言

検索ボックス

PDFダウンロードボタン

論文タイトル: Pathogenicity of the emilzin variant strain comparison with delta variant strain and seasonal influenza in Japan

著者: Kurita Junji, Tamai Sugawara, Tsuyumi Ohnaka

DOI: <https://doi.org/10.1186/14752875-12345678>

PDF (English)

ダウンロード履歴

ダウンロード: 18 | 08/03/2022 04:27:14 (12.4%) | 12/03/2022 04:42:39 (17.4%)

ダウンロード: 76 | 08/03/2022 04:21:17 (4.2%) | 12/03/2022 04:38:12 (26.1%)

Download History

Downloaded 18 times induced by a high glucose diet is associated with intestinal immune dysfunction in Thymus-deficient mice

**ランディングページ**

**日本語表示画面**

**英語表示画面**

論文タイトル: 格子の最短ベクトル問題に対する離散的考察と並列計算アルゴリズム

著者: 堀内 隼二

DOI: <https://doi.org/10.1186/14752875-12345678>

キーワード: 格子基底簡約, 格子多面体, Gram-Church 簡約, 並列アルゴリズム

PDF

ダウンロード履歴

ダウンロード: 20 | 08/03/2022 04:27:14 (12.4%) | 12/03/2022 04:38:12 (26.1%)

ダウンロード: 76 | 08/03/2022 04:21:17 (4.2%) | 12/03/2022 04:38:12 (26.1%)

Parallel Algorithms for the Shortest Vector Problem from a Discrete Perspective

著者: 堀内 隼二

DOI: <https://doi.org/10.1186/14752875-12345678>

キーワード: Lattice reduction, parallel computation, solving algorithm, Gram-Church reduction

PDF (English)

ダウンロード履歴

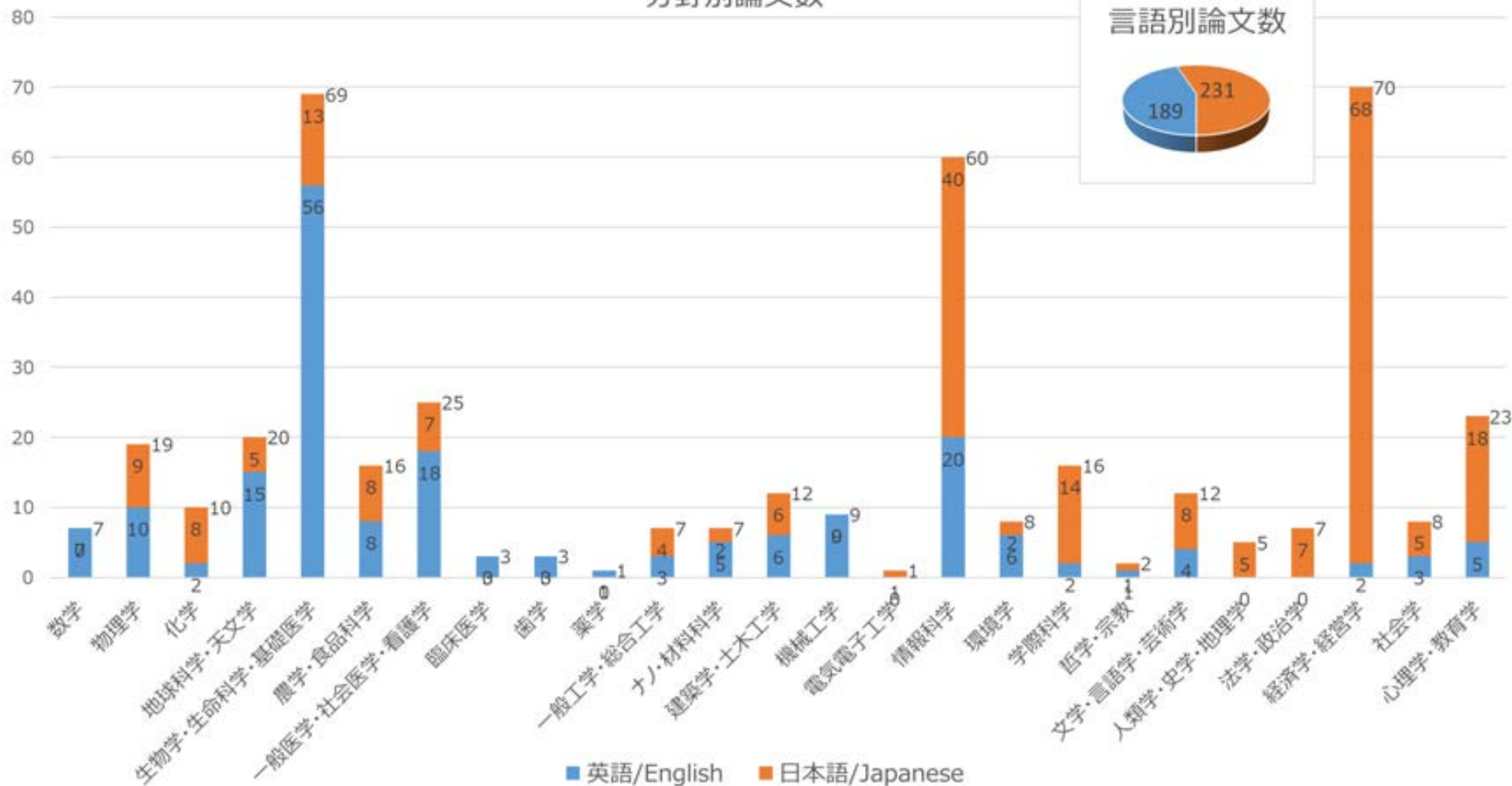
ダウンロード: 20 | 08/03/2022 04:27:14 (12.4%) | 12/03/2022 04:38:12 (26.1%)

ダウンロード: 76 | 08/03/2022 04:21:17 (4.2%) | 12/03/2022 04:38:12 (26.1%)

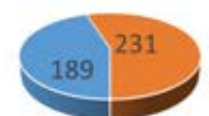
# 公開論文数(2024.8.30時点)

公開論文数: **420本**

分野別論文数



言語別論文数



# 目次

---

1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

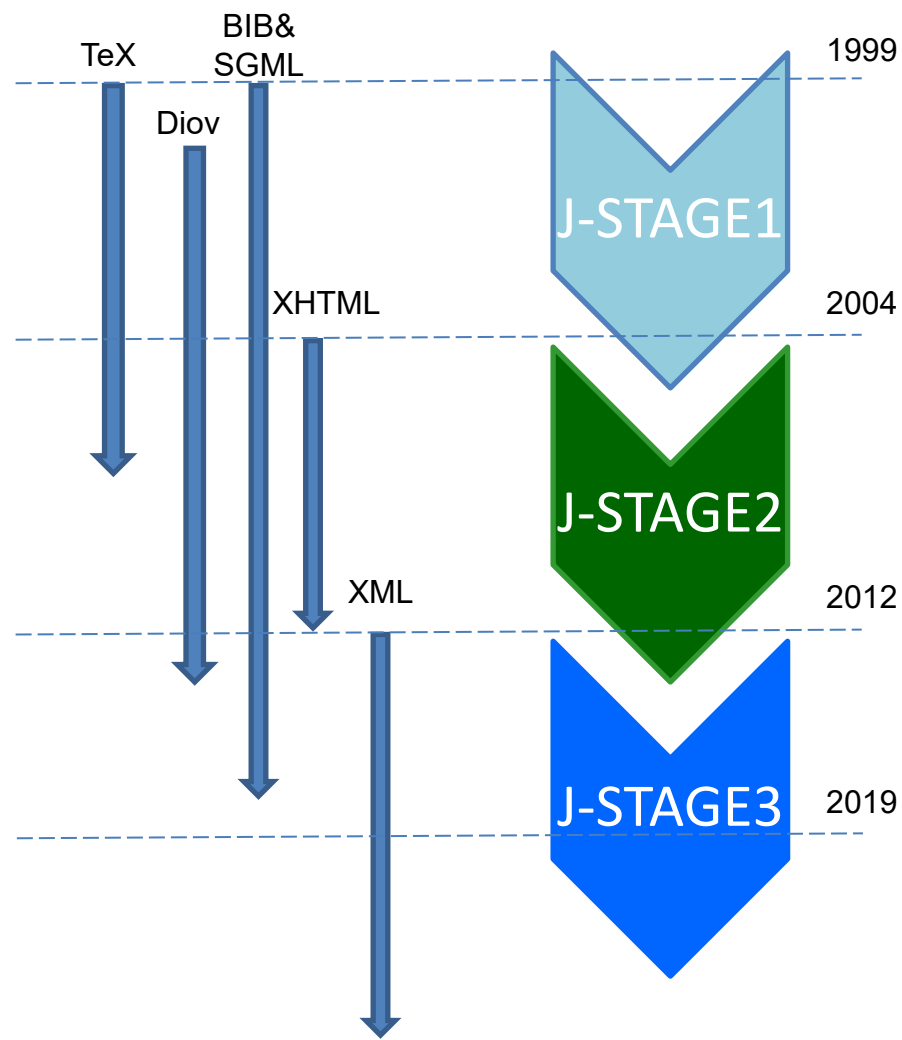


# J-STAGEの課題

## 全文XML化

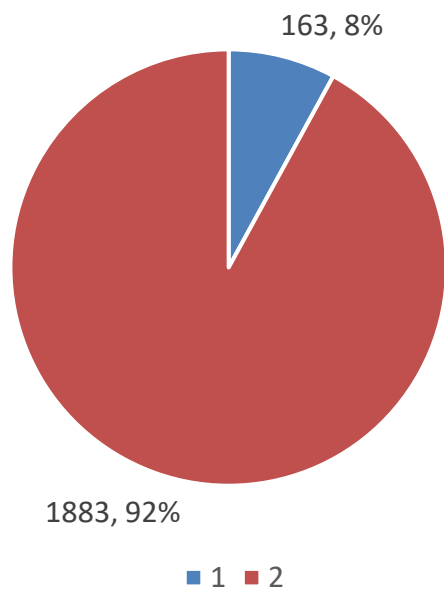
# J-STAGEデータ形式変遷

- TeX           ?1999-?
- Diov           2002-?
- SGML          1999-2019
- BIB            1999-2019
- XHTML        2004-2012
- JATS XML      2012- (ver0.4)  
                  2019- (ver1.1)



# J-STAGEの全文XML化状況

## XML記事掲載の有無



※令和5年度末時点

XML記事掲載  
カレント誌(ジャーナルに限定)の8%

XML化により実現できること、見込まれる効果

- ✓ 長期保存性(標準化された規格)
- ✓ 他システムとの精緻な連携
- ✓ 機械翻訳
- ✓ 汎用性、アクセシビリティ
- ✓ デバイスに応じた閲覧性(PDF、HTML、ePub等)
- ✓ AI、情報解析などへの応用

# J-STAGE全文XMLツールの提供 (2020～)

WordもしくはLaTeX形式の原稿ファイルを元に、J-STAGEに登載できる全文XMLファイルを作成・編集できるツール。

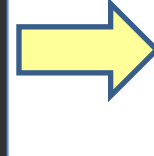


原稿ファイル



原稿変換

The screenshot shows the J-STAGE XML tool interface. On the left is a sidebar menu with options: 原稿変換, インポート, エクスポート, XML編集 (highlighted), 本文画像・動画, 電子付録, ファイル削除, and 終了. The main area displays XML code for an article, including journal metadata and article categories. At the top right of the interface are buttons for 'プレビュー' (Preview) and '保存' (Save).



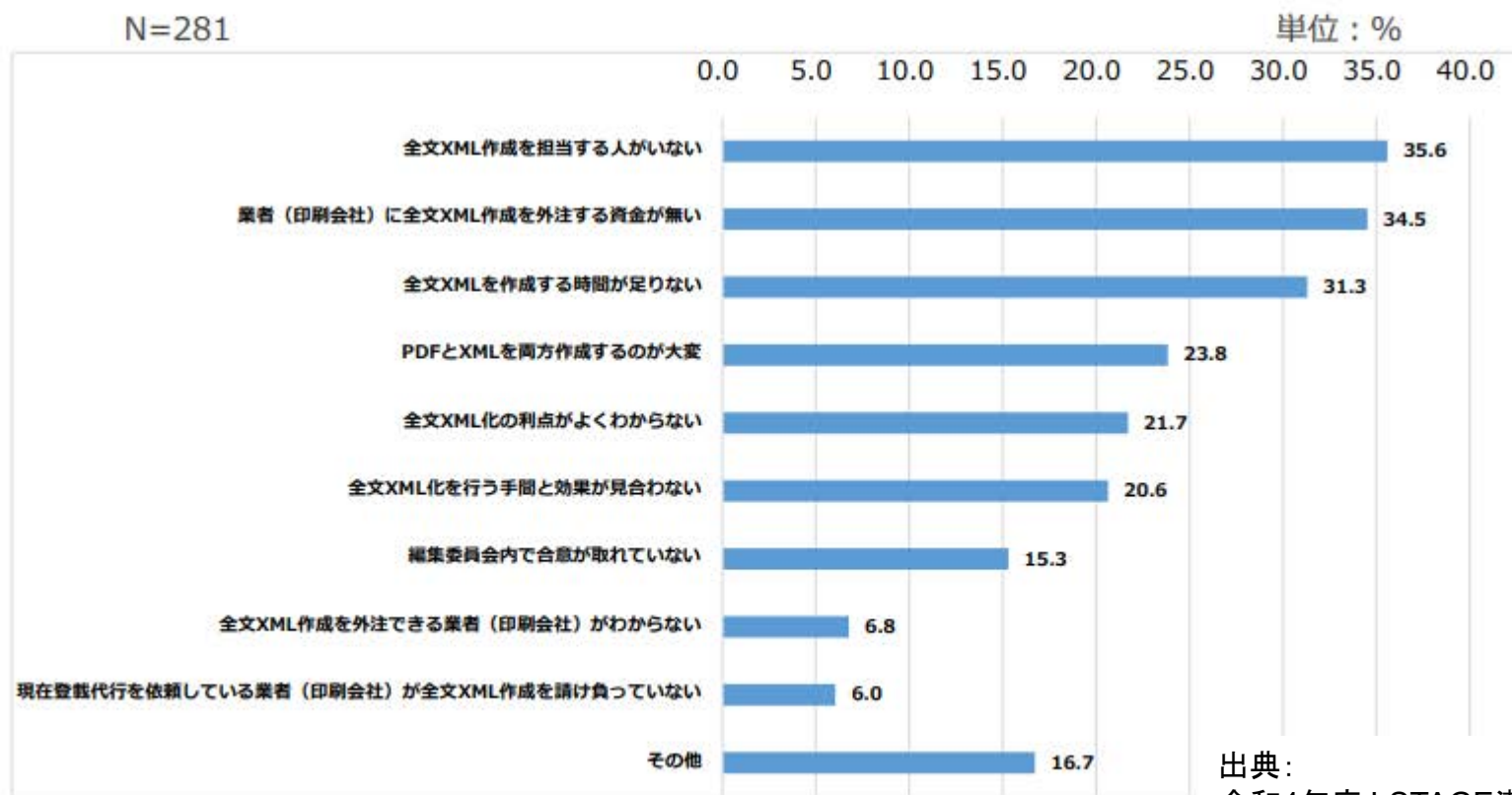
全文XML  
ファイル

- 原稿ファイルを元にXMLデータが生成される。
- その後ツール上でXMLを確認・編集する。
- ツール内にプレビュー機能があり、J-STAGEの公開画面イメージを確認できる。

## ■ J-STAGE 全文XML登載で感じているデメリット、全文XML登載を利用していない理由

設問8. 全文XML登載で感じているデメリットや、または全文XML登載を利用していない理由を選んでください。【複数選択可】

● J-STAGEの全文XML登載のデメリットについて、「全文XML作成を担当する人がいない」が35.6%と最も高く、次いで「業者（印刷会社）に全文XML作成を外注する資金が無い」の34.5%、「全文XMLを作成する時間が足りない」の31.3%の順に続いている。



出典：  
令和4年度J-STAGE満足度調査結果より

# オープンアクセスの定義

ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ (BOAI、2002)

「公衆に開かれたインターネット上において、無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が(中略)財政的、法的または技術的な障壁なしに誰もが許可されること」

(出典：<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/read/> 日本語訳はリンク切れ)

科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) 利用規約

第2条

(4)「オープンアクセス」とは、インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することで、誰もが障壁なく閲覧・利用できることをいいます。

# おもなオープンアクセスの種類

## ① グリーンOA（セルフアーカイブ）:

**機関リポジトリ** などから、おもに著者自身が、多くは **著者最終稿** を無料公開する。多くは **ライセンス** 情報なし

（ライセンス情報がない場合、BOAIの定義をみたしているとはいえない）

## ② ゴールドOA:

**オープンアクセス誌** から論文を無料公開する。著者は **APC**（論文掲載料）を負担する場合が多い。**ライセンス** 情報つき

（ライセンス情報がない場合、BOAIの定義をみたしているといえないため、J-STAGEにおいてはオープンアクセス誌ではなくフリーアクセス誌とされる）

# オープンアクセスに関連した用語

## ■ライセンス:

コンテンツを二次利用する際の範囲・条件などを示す **CCライセンス** など

## ■著者最終稿 (Accepted Manuscript: AM):

査読およびそれをうけた改訂をへて受理された原稿

## ■出版社版 (Version of Record: VoR):

発行機関 (出版社) が、出版のため著者最終稿をジャーナルのスタイルにレイアウトを整えた原稿。多くのジャーナルでは、出版社版のグリーンOAを認めていない

## ■APC (Article Processing Charge, 論文掲載料):

オープンアクセス誌の多くでは、著者はAPCを支払う必要がある

## ■ハイブリッドOA誌:

ジャーナル自体は有料の購読誌だが、著者が APC を支払うことにより、その論文をオープンアクセスとするジャーナル。ハイブリッドOA誌からオープンアクセスで論文を出版することでも、ゴールドOAとなる



# オープンアクセスにおけるエンバーゴ

オープンアクセスには、エンバーゴ（公開猶予期間）が設定されていることもある

## ① グリーンOA:

現在、海外大手出版社の多くのジャーナルでは、機関リポジリへの著者自身による著者最終稿の公開を、出版から12ヶ月～24ヶ月の**エンバーゴ期間**のもとで認めている

## ② 出版から一定の期間ののちOA:

海外大手出版社には、オープンアクセス誌ではないものの、出版から12ヶ月～24ヶ月の**エンバーゴ期間**ののちに、論文をオープンアクセスにするジャーナルもある

J-STAGEでは、これと似たようなパターンとして、出版・公開から一定の期間は認証付きとして学会員以外は閲覧できないとするジャーナル、また、（冊子体の）出版から一定の期間はJ-STAGEから公開していないジャーナルが多くある

# オープンアクセスにするためには

**論文の著者**が、論文をオープンアクセスで公開するにあたって、以下の2つの方法がある

- ・出版された論文について、**機関リポジトリ** などから著者最終稿を公開する
- ・論文を **オープンアクセス誌** に投稿・出版・公開する、あるいは、ハイブリッドOA誌よりオープンアクセス論文として出版・公開する

**ジャーナル**が、オープンアクセスに対応するにあたって、以下の2つについて考慮する必要がある

- ・出版された論文について **グリーンOA** での公開を許容する
- ・「オープンアクセス誌」(ハイブリッドOA誌) にすることで **オープンアクセス論文** としての公開 (を著者が選択可能) とする

# 即時OAの実現に向けた基本方針

2024年2月16日 統合イノベーション戦略推進会議決定

## 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」

- 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者(法人を含む)に対し、該当する競争的研究費による**学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける**
- 学術プラットフォームに対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援し、交渉の取組を通じて研究コミュニティの**経済的負担の適正化**を図る
- 機関リポジトリ等の情報基盤とは、**研究データ基盤システム**(NII Research Data Cloud)上で学術論文及び根拠データが**検索可能**となるものとする
- **FAIR原則**に沿ったオープンサイエンスの推進のため、学術論文及び根拠データの即時オープンアクセスに関する**国際連携**を進める
- オープンアクセスは研究成果の発信力の向上等のために行うものであることを認識し、**既存の研究費や採択件数を圧迫しない**よう留意する

# 海外のオープンアクセスに関する方針

## ■ 米国

大統領府科学技術政策局 (OSTP) パブリックアクセスポリシーの更新に関するメモランダム (2022年8月)

- 公的助成研究成果 (研究論文およびその研究データ) は、**エンバーゴ期間を設けず即時オープンアクセスで公開**
- 連邦政府機関に対し、**2025年12月31日までにパブリックアクセスポリシーを改訂・施行することを求める**

<https://www.whitehouse.gov/ostp/news-updates/2022/08/25/ostp-issues-guidance-to-make-federally-funded-research-freely-available-without-delay/>

## ■ 欧州

- 助成機関や多数の政府機関レベルでオープンアクセス化を推進
- 全体的に**ゴールドOAを支持**
- 欧州の研究助成機関から構成されるcOAlition Sが「**Plan S**」を発表 (2018年)  
2021年1月以降にcOAlition S参加機関から支援を受けた研究成果は、**即時オープンアクセス公開**が義務づけられる

[https://www.coalition-s.org/plan\\_s\\_principles/](https://www.coalition-s.org/plan_s_principles/)

# 日本におけるオープンアクセス方針

## 2025年度公募から公的資金による研究成果論文の 即時オープンアクセス化

### 2023年5月12日-14日 G7仙台科学技術大臣会合 共同声明

「G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援」

### 2023年5月20日 G7広島首脳コミュニケ

「G7は、FAIR原則に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスを推進する」

### 2023年6月9日 閣議決定 「統合イノベーション戦略2023」

「我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する」

### 2024年2月16日 閣議決定 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」

「我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスを実現する」

# J-STAGEとオープンアクセス

- 2005年 日本化学会の英文誌においてopen access記事にアイコン付与
- 2014年 記事単位でCreative Commonsライセンス表示が可能に
- 2015年 J-STAGE利用規約においてオープンアクセス推進を明記
- 2016年 ジャーナル単位でCreative Commonsライセンス表示が可能に
- 2018年 ジャーナルコンサルティングサービス開始  
(オープンアクセス誌化,DOAJ収載支援)
- 2019年 中長期戦略にてオープンサイエンスの潮流に対応することを謳う  
ジャーナル情報としてオープンアクセス誌アイコン表示が可能に
- 2020年 J-STAGE Dataリリース
- 2024年 中長期戦略改定版にて即時OA方針に対応することを謳う  
即時オープンアクセス方針への対応 説明会

# 即時オープンアクセス化に向けて

- 即時OAの対象は、**査読付き学術論文**（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文、著者最終稿を含む）および**根拠データ**
- 2025年度新規公募分から対象となるので、その研究費が交付され、研究が実施され、研究成果が論文となって投稿・出版された段階で、その論文が即時OAの対象になる。なので、ジャーナルとしては、**2025年度からといっても若干タイムラグがある**
- OA化の方法としては、機関リポジトリなど情報基盤への掲載を義務づけているので、オープンアクセス誌からの出版ではなく、グリーンOA（著者最終稿の機関リポジトリからの公開）を想定していると考えられる。ジャーナルとしては、急いでオープンアクセス誌に移行せずとも、**即時のグリーンOAを許容する**、という対応でよいと思われる

# J-STAGEの即時OA対応への取り組み（予定含む）

- 2024年5月に公開した「我が国のジャーナルの振興に向けたJ-STAGE中長期戦略（改定）」にもとづき、J-STAGE利用誌が自誌が即時OA対応誌であることを投稿者に明示できるよう、「（即時OA方針に）鑑み、研究者、所属機関がこの義務を履行できる条件を、オープンアクセスポリシーの明確化によって各ジャーナルが整えることを利用規約において求め、その実現のための情報提供を行う」予定である



- J-STAGEでは、発行機関への即時OA方針への対応方策についての説明会を開催している。
- また、今後、即時OA対応誌がオープンアクセスポリシー情報を明示できるようメタデータ項目などを設け、対応誌の入力情報にもとづき、即時OA対応誌を検索できるような改修を検討している



**ご静聴ありがとうございました**